

第 2 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 2 号)

1 平成4年6月15日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 秋山 光章	2番 増田 基彦
3番 島田 保	4番 斉藤 実
5番 宮沢 治海	6番 植木 馨
7番 鈴木 順子	8番 永井 龍平
9番 脇田 安保	11番 山崎 雅己
12番 岩村 勝弘	13番 榎本 春光
14番 小宮 利夫	15番 山中金治郎
17番 鈴木 忠夫	18番 日下 君敏
19番 川名 正二	20番 生稻 陞
21番 神田 守隆	22番 福原 勤
23番 石井 昌治	25番 流山源次郎
26番 辻田 実	27番 横溝 功
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 2名

10番 庄司二三男

16番 鈴木 勝美

1 出席説明員

市長 庄司 厚

助役 小幡 清之

収入役 川上 義雄

市長公室長 永野 修

総務部長 斉藤 賢司

民生部長 佐藤 澄雄

経済部長 小沼 晃

建設部長 伊東 衛

水道課長 鈴木 信一

教育委員会 会長 伊藤 昌彦
教 育 委員

教育委員会 会長 福原 修
教 育 委員

農業委員会 会長 小倉 孝
農 業 委員
事 務 局 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一

事務局長補佐 土橋 康彦

書 記 鈴木 哲

書 記 鈴木 修一

書 記 松浮 郁夏

1 議事日程（第2号）

平成4年6月15日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時03分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数24名、これより第2回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の6月10日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等発言があらうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

1 番議員秋山光章君。御登壇願います。

（1 番議員秋山光章君登壇）

◎1 番（秋山光章君） 私は質問に先立ちまして、我がよき指導者、そして館山をよく知り、こよなく愛し、これからの館山のために一生懸命討論、討議し、志半ばにして3月議会中に倒れ、他界されました前副議長、故石井輝久氏に対しまして心より御冥福をお祈り申し上げる次第でございます。私たちは先生の意思を継ぎ、一生懸命明るく住みよい館山市づくりのために頑張

ることをお誓い申し上げます。

さて、私は今次定例会に提案されました議案8件の審議に先立ち、当面する館山市政の中で最も重要と思われる諸問題のうち、以下3点に絞って質問をいたします。

質問の第1点は、平成元年3月の当初予算において679万8,000円で策定をいたしましたアトラクティブ鏡ヶ浦計画という館山市の玄関であります、また館山市の財産でありますあの鏡ヶ浦をいかにという計画であります。まぶたを閉じてみていただきたいと思います。そして、あと5年先を考えてみていただきたいと思います。館山駅に電車で着きます。階段を上り西口に、そしてきれいに整備されました西口を通りまして5分、霊峰富士山が指呼の間にあり、白帆のヨットが浮いているあのすばらしい鏡ヶ浦、そして自然と調和のとれた観光施設があり、船形から沖ノ島までを一望できる、そんなすばらしい鏡ヶ浦であります。こんなによいところは日本じゅうどこにもないと自負するものでございます。

それでは、現実に戻りたいと思います。駅から5分ということですが、今の館山市の事業内容では、こちらにあります館山市根幹事業計画でございしますが、橋上駅舎ではなく、西口、そして東口を結ぶ自由通路ということになっております。西口に行くのには、東口でおりて、自由通路の階段を上りおりまして西口へ出る。これでは話にならないと思います。JRは受益者負担の考えでいますので、ぜひ館山市において館山市の玄関としまして橋上駅舎をつくっていただきたい、このように思います。

次に、アトラクティブ鏡ヶ浦計画調査報告書ですが、春夏秋冬それぞれに自然と調和のとれた計画がなされ、また諸問題も多々あるかと思います。一つずつ解決しなければならないことがたくさんあります。しかし、以前館山からフェリーボートが発着するというようなお話も私聞いたことがあります。これもアトラクティブ鏡ヶ浦計画の海上交通路の話の一部だと思います。平成3年から6年までの館山市根幹事業実施計画には新交通システムの導入、海上交通路開設事業としてこの実施計画に載っておりますが、アトラクティブ鏡ヶ浦計画というものが載っておりません。つまり、これはせっかくお金を

かけたんですが、事業化されないということなんでしょうか。

次に、これから平成7年ないし8年を目途に鋭意工事が進められております東京湾横断道路、そして東関道館山線が開通をし、そして待望の水が館山に来たときには館山の発展は間違いありません。そして、首都圏より車で館山まで1時間30分、いや1時間かも知れません。そんなとき、南房総に、館山にたくさんの観光客が来てもらえるのは火を見るより明らかであります。そのとき、館山、そして鏡ヶ浦としての受け皿はどのようにするつもりでしょうか。

次に、いかがでしょうか、日曜日の夕方の道路の混雑。京葉道路、また湾岸道路もどちらも高速道路ですが、上りはずっと日曜日の夕方は込んでおります。東関道館山線高規格道路もできた暁には、夏には恐らく館山から東京まで込んでしまうのかもわかりません。

そこでJRですが、今東京から館山まで2時間、あと何分時間の短縮ができるでしょうか。そして、あと何本の増便ができるでしょうか。富津までは複線になるやに聞いておりますが、館山までのたくさんのトンネル、これでは複線はちょっと無理かなと思います。しかし、関係各位におかれましては一生懸命努力をされまして、できるだけ早いうちの複線化もお願いをしたいと思います。

そこで、私が12月の定例議会に発言をいたしました海水面を利用した高速艇の就航でございます。このことは漁業権等の特殊な問題があるわけですが、幸いにいたしましてこちらには我らの大先輩であります庄司二三男議員がおられますが、館山船形漁業協同組合長という要職にあられますので、大変よい機会かと思えます。聞くところによりますと、だんだんと魚もとれなくなっているとのことでございます。漁業者は、海のことにはよく知っている。おれらの海だと言います。その海を育てる漁業もよし、遊漁船もよし、鮮魚の販売もシーフードレストラン等の経営も船の手入れも、そして駐車場の管理も。とにかく漁業権者と話し合い、鏡ヶ浦、館山から東京まで海上距離で80キロ、船の大きさや、また浦賀水道、中ノ瀬航路の関係もありますが、高速艇で30ノットで走りますと、91分で東京まで着くといえます。

いろいろ並べましたが、あらゆる面において海上交通は必要不可欠のものと考えます。話し合い、許可申請等々、今始めても何年かの歳月を費やさなければなりません。それこそ焦眉の急ということでございます。他地区においてはリゾート法の見直しを余儀なくされている中で、観光都市として生きていかなければならない館山市としてぜひ積極的に推進していただきたい。市当局の御所見をお聞かせいただきたいと思います。

続きまして、市民農園についてお尋ねをいたします。平成元年6月に特定農地貸付けに関する農地法等の特例に関する法律という農地法の特例制度が制定をされ、地方公共団体や農業協同組合が事業主体となって、農家から農地を借り、市民に貸し出すことができるようになりました。さらに、市民農園の整備を適正かつ円滑に推進し、健康でゆとりのある国民生活の確保を図るということで、平成2年に市民農園整備促進法が制定されました。

市民農園を整備して貸し出すことはさまざまな利点があります。市街地の中にある農地や後継者の都会流出、所有者の高齢化等による遊休のおそれのある農地を有効に利用できる。農業者以外の人が農業を経験することで理解が深まる。非農業者と農業者や農村住民との交流ができる。そして、レクリエーション、環境保全や防災避難所等になりますとともに、労働時間の短縮などで余った時間を使うことができると思います。若い夫婦が子供連れで、子供が泥まみれになって土いじりをしている。また、年老いた夫婦がなれない手つきで小さな農園を楽しく耕作し、できた野菜や花を近所に分け合ったりしている光景をテレビ等で見たことがあります。

では、館山ではどうでしょうか。週休2日や3日勤務で3日休みの会社もあるやに聞いております。今の館山で時間をつぶすのはパチンコぐらいしかないのであります。太陽の光を浴びて汗を流して、健全なと申しましょうか、すばらしい休日を過ごすためにも必要かと思うのであります。市民農園は千葉県でもたくさんの自治体が開園をしております。千葉市、八千代市、船橋市等は農産課を主体としておりますが、館山での実現はいかがでしょうか。

ちょっと発想を変えまして、お年寄りの生きがいと申しましょうか、生涯教育の一環として、社会教育の場面での市民農園も考えてみたらいかがでし

ょうか。館山市民のたくさんの人が要求しているかと思いますので、ぜひ実現をお願いしたいと思います。

次に、宝貝、稲部落に計画中のインダストリアルパーク計画につきましてお伺いをいたします。県の企業庁の温かいお計らいによりまして、当地に、70ヘクタールという広大な土地に開発が予定をされております工業団地であります。館山市、いや安房郡の人口の流出をとめ、また都会からのUターン組を迎えられる場所として、また地域の経済の発展には必要不可欠な策だと私は考えるものであります。

人が集まるところにはあらゆるものがついてまいります。今や農家の長男、また商店の長男でさえも大学、専門学校に行ったらばそのまま帰ってこないなど、魅力のない、働く場所のない館山市になっているのであります。それが証拠に、館山の銀座通り、昔は七夕等で大変活気のある商店街でした。しかし、今ではいかがでしょう。歯の抜けたような商店街でございます。こちらに見えておりますが、商店会会長さんたちも活性化のためにいろいろの策を考え、実行しているわけでございますが、根本は人口の流出が大きな原因であります。毎年3月には住民票がどっと都会に流れ込んでいきます。働く場があれば人も来ます。人が集まれば遊び場もできます。そこで若者が定着するのであります。

私は農家ですから、農家のことをここで言いますけれども、農家の長男におきまして、これから専業農家で生きるためには今各農家が耕作をしている面積では足りません。そして、今勤め人が稼ぐ分と申しましょうか、働いて得る分としてはよほどの耕地がなければやっていけません。

そこで、今流行語となっております時短と申しましょうか、週40時間が当たり前ようになってきた職場もあります。週休2日の職場では優に水稻等の兼業農家が十分成り立つわけでございます。そして、お年寄りを含めて家族みんなで生活ができる。これは大変なメリットだと思います。明るく楽しい職場があり、遊びを含めての運動施設があり、海あり山あり、いろいろの面に活気のある館山市になりますよう早期の実現を切にお願いするわけでございます。

ところで、今現在の進捗状況を教えていただきたいと思います。ＪＲ線路の横断を含めての進入路はどうになりましたでしょうか、教えていただきたいと思います。昨年来のバブルの崩壊によりましての景気の低迷が続く中で、参加企業者の予想はいかがでしょうか。そして、企業の募集はいつごろ始めるのでしょうか。

以上で質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの秋山議員の御質問にお答えいたします。

まず最初のアトラクティブ鏡ヶ浦計画に関します御質問の内容でございますが、アトラクティブ鏡ヶ浦計画に関するこの計画はかつて検討したことがございましたが、構想の段階で終わりました、具体化に至っておりません。

ＪＲ館山駅の自由通路につきましては、昭和56年6月に館山駅東西歩道橋建設促進協議会から館山市議会に対しまして館山駅東西歩道橋建設の請願が提出され、議会で採択されております。これを受けまして、館山駅東西歩道橋建設に向けて東日本旅客鉄道株式会社千葉支社等関係機関と協議を進めてまいりましたが、請願時より10年以上も経過し、その間館山市を取り巻きます諸環境や市民の要望も大分変化してきているように考えております。したがって、東口地区、西口地区、これを結びます連絡の方法等につきましてはどのような施策が最もふさわしいものであるか、これをさらに調査検討してまいりたいと考えております。

次に、海上交通に関しましては、東京湾フェリー株式会社におきまして高速艇による開設の動きもございましたが、現在は白紙の状態でございます。館山市といたしましては今後検討していく問題でございます。

また、東関東自動車道館山線や東京湾横断道路が開通した場合、その受け皿としての鏡ヶ浦の活用につきましては、重要な課題でございますので、今後とも関係者と協議を重ねてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、市民農園についての御質問でございますが、現在千葉

県下におきましては八千代市、成田市、山田町と農協の2団体が実施しております。いずれも東京近郊の人口急増地帯で、利用者も近隣の団地入居者が大半でございます。利用者の立場からすれば、この種の事業も生涯学習の場であることは理解できますが、館山市といたしましては、これらの地域とは環境等の相違もございまして、実施については現在のところ考えておりません。

次に、大きな第3、館山インダストリアルパーク計画についてでございますが、いよいよ本年度から千葉県企業庁によりまして事業が実施されることとなりました。本年度の事業内容といたしましては、計画区域内の用地の取得、測量調査等が予定されております。

進入路につきましては、現在千葉県企業庁が東日本旅客鉄道株式会社千葉支社、千葉県公安委員会等の関係機関と協議中でございますが、近く計画案をまとめ、市と地元とに協議することとなっております。

次に、進出企業及び募集時期についての御質問でございますが、現在の計画では、団地を造成してから企業を誘致するのではなく、進出する企業を選定し、そして造成する方式——オーダーメイド方式を採用し、企業を誘致しようとするものでございます。計画区域内の用地取得状況に基づきまして企業誘致活動を進めていく予定でございます。

なお、業種につきましては、公害の心配のない企業を考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） まず、質問の第1点の橋上駅舎の件でございますが、理解できるわけでございますが、実は過日JR東支社の社長が館山駅へ着きまして、館山を回りながら白浜へ向かったということでございます。どういうわけか改札は出なくて、裏から回って出たということだったんですが、これはよしとしまして、そのときにJR内房線、外房線の駅長、また区長さんと呼ばましているいろいろ話をしたそうでございます。そのときに、上総一ノ宮—勝浦間ですか、外房方面でございますが、この話が出まして、JRとしては県が3分の1、そして地元が3分の1、JRが3分の1負担で勝浦までの

複線化をしたいというようなお話があったそうでございます。

そういうわけで、我々も今までは、JRとしては受益者負担だから、地元で要請する分については全部地元で出さなきゃいけないんだよというような感もあったわけですが、こういう話を聞きますと、我々が一生懸命陳情とかいろいろすれば、これから発展する館山でありますので、力を入れてくれるんじゃないかな、このように思うわけでございますので、ぜひまた関係機関で一生懸命陳情等をしまして、すばらしい館山駅舎、できれば館山に駅ビルなどができれば、そして駅ビルの中に役所の市民課の出張所みたいなものができればいいなと考える次第でございます。これは要望にて終わりたいと思います。

続きまして、アトラクティブ計画の経過でございますが、これは私の聞いたずっと前の話でございます。それこそこれは話にならなくて終わったということでございますけれども、考えてみますと、漁業者との話がうまくいかなかったようなことも聞いておりますが、前のわかしてお国体のときに館山でヨットの競技をやりたいという話が県からあったそうでございます。そのときに、ヨットをやるためにいろいろ県と漁業者との話し合いがあったときに、館山の港ですか、あそこからヨットを出すというような話の中で、それでは風とかいろいろな面で桟橋の延長のお願いとかしゅんせつをお願いしたいということで漁業者からのお話があったそうでございますが、それは県の役人、これは市じゃなくて県のことだと思いますけれども、大した話もしないで帰っちゃった。もう少し真剣に、一生懸命その漁業者との話ができればそれもまとまって、聞くところによりますと、葉山や向こうよりもっとすばらしいヨットハーバーがそのときできていたんじゃないのかということ言う方もいらっしゃいます。

そういうわけで、もっと真剣に、それこそ漁業権者は漁業権があるわけでございますので、それを話し合いで権利を譲ってもらったりするわけでございますので、もっと役人といたしましても真剣に、人の土地を買うのと同じでございますので、真剣にやってもらったらもっと話がうまくまとまったんじゃないかなということでございます。

そういうわけで、いろいろな面で市としての、役所としての住民との話し合いが途中で切れてその話がペアになるというようなことも今までも何回か聞いておりますけれども、もう少し親身になって話をさせていただきたいなと思います。それぞれみんな条件があると思いますので、その条件をお互いで出し合いながらやっていただければもう少しまとまらないものもまとまるんじゃないかなと思います。それは要望で終わります。

3点目は、平成7年度、つまり平成8年3月の31日までのことですが、東京湾横断道路、東関道館山線が開通できると思いますが、またその両方の、双方の道路で館山にお客様がたくさん来たときに、市内の道路、そして鏡ヶ浦、そして駐車場等の対応は館山で今できますでしょうか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 東関道が平成8年度にこちらに来るという予定になっておりますけれども、当然それは駐車場等については検討しなきゃいけないと思っております。対応できるようにしなければならないと思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） わかりました。それでは、よろしくをお願いしたいと思います。

それでは、4点目でございますが、アトラクティブ鏡ヶ浦計画は海上交通路の開設から始まったことと聞いておりますけれども、ちょっとそのことにつきましてお話を伺いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

海上交通に関しましては、リゾート地としての多様な交通手段確保の観点からもその必要性は十分認識しておるところでございます。今後とも事業者の採算性の問題等も含め、いろいろと課題もございまして、引き続き関係者と協議を重ねながら検討してまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勲君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） わかりました。いろいろな障害はあるかと思いますが、これからの館山市にはこの計画は必要不可欠のものと考えます。館山リゾート研究会の交通アクセス部会の報告にもありますとおりに、これはとにかくやらなければならないということでございますので、ぜひ早期の実現を要望いたしまして、次にいきます。

市民農園につきましてですが、千葉県は3分の1が田畑と申しましょうか、耕地と申しましょうか、そして3分の1が山、そして3分の1がその他となっておりますのでございます。ここ館山といたしましても耕地がたくさんあるわけですが、マンションや宅地ばかりの町中と異なり、田や畑がすぐ近くにもあるわけですが、しかし、それは他人のものでございます。そこで、行政等が中間に入り、気安く農園が借りられる方法もよいかなと思います。館山市の八幡あたりでは個々にやっているところがあると聞いておりますが、まだ転勤等で知らない方もいらっしゃいます。そういうわけで、市で開園をしていただければ、市の広報等に載せていただきまして、たくさんの申し込みがあるかと思しますので、これは要望しておきます。

次の生涯教育の一環としましてどうですかということで私はお伺いもしたんですが、私が年をとりまして、勤めていれば定年ということが出るわけですが、定年になったとき、朝起きてきょうはどこへ行こうかな。——やはりこれは働く場所があるとか行く場所があるということで生きがいがあると思います。そういうわけで、行く場所のないというのは早く年をとるとか、そういうような感を受けるわけですが、朝起きて、きょうはじゃあ畑へ行って、そういうことができれば大変いいんじゃないかなと思います。

先日の5月30日ですか、31日ですか、クリーン・アンド・ビューティフルという館山市でと申しましょうか、千葉県でも全般的にやりました仕事でありますが、その中でも花いっぱい運動等があります。そういうものも生涯教育の一環かなとも思いますが、ぜひそれにあわせて、自分の農地があ

るんだよ、きょうはあそこへ行って働けるんだよというような、そういった観点から、ぜひ生涯教育の一環といたしましても入れていただいたらいいかと思います。これも要望にします。

3番目の工業団地でございますが、インダストリアルパーク計画がこのほど3月の県の議会ですか、それで館山工業団地と名前が変わっておりますが、これはどういうわけでしょうか、教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

企業庁では従来から市町村名を冠しまして〇〇工業団地というふうに名称をつけておるわけでございます。したがいまして、当館山地区の今回の工業団地につきましても、事業化の際の条例上、館山工業団地が正式名称となります。しかし、パンフレットや企業誘致活動をするとき等は、当工業団地の特徴をイメージいたしました周辺の緑化や公園化した美しい工業団地、いわゆる館山インダストリアルパークの名称を全面にアピールしていく考えでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） わかりました。私たち住民は大いに期待をしているところでございます。地元の意向に沿いまして、県との折衝をよろしく願いいたしまして、早期の実現を希望いたしまして、これで質問を終わります。

どうもありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で1番議員秋山光章君の質問を終わります。

次、7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 質問に先立ちまして一言申し述べます。

当館山市議会におきまして副議長の要職におられました故石井輝久氏が3月議会開会中に倒れられて、そのまま帰らぬ人となりました。謹んで弔意を申し上げ、心より御冥福をお祈り申し上げます。

それでは、質問に入らせていただきます。私はさきに通告をいたしてご

ざいます2点につきまして御質問をいたします。

まず第1点目でございますが、教員の退職の状況を伺います。まず小さな1点目、現在は中高年層の働く場が何かと取りざたをされております。それは働く多くの人が、60歳定年制が一般化されてきておりますが、それでもまだ働ける、働きたいと思っているからだろうと言われております。そういう状況の中で、企業の中には65歳定年制を打ち出して実施をしている、そういうところもふえてきていると聞きます。安房郡内の60歳以上の定年制実施企業、これも年々ふえてきており、本年2月に出されました館山公共職業安定所の調査報告によりますと、前年度より13.9ポイント上昇の91.2%の企業が実施をしておるとされております。県平均の81.7%を大きく上回っているとの報告がなされておりました。この中高年層の雇用問題については、国、県等が積極的に雇用を進めるために各種援助制度などを事業主の方々へ指導しているところのようでございますが、着々と理解をされ、利用件数も増加をしているということでございました。

このように社会的な背景がある中で、教員の退職者の年齢が若いんじゃないかという声を聞きます。私自身多くの教員の方々や退職をなさった教員の方々と話す機会がございまして、この若いうちでの退職、いわゆる若年退職がよく問題にされます。私の調査ですと、ことしの3月—平成3年度末の退職者の内訳ですが、60歳で退職なさった方全員が校長先生をしておられた方で、全員が男性の方のようでした。また、一方では53歳、55歳、56歳と女性の方が退職をされました。50歳で退職をなさった方もいらっしゃいます。もっと若い方で退職なさったことはそれぞれ理由がおありの御様子でしたので、今回はあえて中高年—いわゆる50歳以上の方の退職のみを対象として質問をいたします。

先ほど来申し上げておりますように、60歳定年が引き上げられ、65歳定年制へと移行しつつあるこのときに、教員の方々の60歳定年を指導していると思うのですが、いかがでしょうか、現在の状況について御質問をいたします。

次に、小さな2点目でございますが、教員の方々に必要以上の退職勧奨をしていないかどうか伺います。私はことしで退職された方ばかりでなく、前

年度あるいは前々年度とさかのぼって退職された方々のお考えを聞いてまいりましたが、自ら選んで十分納得をされた上での退職ではなかった、そういう意見が非常に多かったわけです。今でもやめさせられたという意識を持っております。こういう思いをいまだに持っておられるということは、必要以上の退職勧奨があったのではないかと思うのですが、いかがでしょうか、お伺いをいたします。

次に、小さな3点目でございますが、特に女性教員の退職年齢が若いと思いますが、いかがでしょうか。先ほど来話しましたように、男性、特に校長先生をやっておられた方は60歳までお勤めになられている一方で、女性教員の退職年齢が非常に低くなっており、なぜなんだろうと思わざるを得ません。

御存じのように男女雇用機会均等法という法律がございます。私がここで言うまでもないこととは思いますが、この法律は法の下での平等をうたっている憲法の理念にのっとり、女子が雇用の分野で男子と均等な機会を得、その意欲と能力に応じて均等な待遇を受けられるようにすることを目的としております。具体的には、募集や採用、配置、昇進、福利厚生、定年退職に至る雇用の各段階等における男女の均等な機会及び待遇の確保を促進するため、雇用主に一定の措置を講ずるように求められております。

私は女性教員の退職時の年齢が非常に若いのに、60歳まで勤めておられる校長先生が多くいることに対し疑念を持たざるを得ません。また、この問題につきまして、先日行われました千教組定期大会におきましても意見が出されたと聞いております。分会では職場会が行われ、若年退職について問題が出されたと聞いております。

そこで、この問題についてのお考えをお伺いをいたします。

次に、大きな2点目でございますが、老人保健福祉計画の現状と今後についてでございますが、3月議会で考え方等について若干お聞きをしたわけですが、年度がわりをして、いよいよこの計画が本年度は調査段階でスタートをしましたので、具体的な進め方としてどのように行っていくのか、考えがまとまっているはずですのでお聞きをします。

館山市は高齢化が著しく進み、またひとり暮らしの高齢者が県内でも断ト

ツに多いという現実があります。より重要な問題として指摘を各方面からされております。厚生省の老人保健福祉計画の策定指針の骨子、拝見をいたしました。問題点が多いとあらゆる方面からのこれも指摘をされていると伺います。確かに調査段階一つとりましてもプライバシーの問題等絡んできまうので、指導されているように1人1人に当たって調査をせよとなっておりますが、実際にできるのかどうなのか疑問もありますし、対象者の中には入所者や入院者、または若くして倒れられ、老人保健対象者も入っていないように思います。この計画が実施されるには、対象者、その家族、地域医療、行政、この方々が一体となって進めていくことが必要不可欠ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

私先月末に機会がございまして、地域医療に力を入れている群馬県医師会の病院の一つであります中之条町沢渡温泉病院を見学することができました。この病院は、地域の特性を生かした温泉療法を生かし、運動機能障害の回復に効果を上げ、さらに社会復帰に対し行政も絡めての対応をしている病院であります。全国屈指のリハビリテーション病院として有名であるということですが、病院の施設もさることながら、不幸にして障害を持てしまった方々の社会復帰へ向けての病院、職員の方の患者への対応は目をみはるものがございました。障害者を社会復帰させるための考え方がすばらしく、患者の身になって、職員自ら車いすに乗ってみて車いす生活をしている方の身になってみる。そこからさまざまな問題提起が出て、そして解決をしていくと実践をしております。患者さんにはどんどん訓練のために病院の外へ出てもらい、なれた方は単独で、つえをついたり車いすだったりいたしますが、散歩をしております。病院内には医療体育施設がありまして、多くの退院した患者さんがパラリンピックなどで活躍をしていると聞きました。また、この秋から在宅介護支援センターが増設をされ、国から470万の補助金が、また県、町からそれぞれ200万の補助金が出てスタートをするというお話でした。空き待ちをしている患者さんが70名から80名いるとのことで、今さらながらこういう病院の必要性を感じたものです。社会復帰をする際の行政との連携には頭が下がるものがございましたが、家へ帰っても普通に生活でき

るようにするための訓練や、患者の家庭へ足を運び、行政の援助を受けながら対応していく姿勢は本人や家族にどれだけ心強い思いを持たせたいかと感心をいたしました。担当者のこれだけやってもまだまだ不足なんですと言った一言がまだ胸に残っております。

しかしながら、館山市も地域ぐるみ福祉事業が総務庁長官官房老人対策室の行った長寿社会づくりモデル市町村として全国10市町村の調査対象地として調査をされ、報告をされました。そういう意味でも、今後の当館山市が策定を進めていく老人保健福祉計画は広く注目をされていると聞いております。

したがって、小さな1点目、現状把握のための調査はどのように行うのか。また、小さな2点目、厚生省の骨子を受けて市として県に意見を上げたはずでございますが、どういう意見を上げたのか、考え方もあわせてお伺いをいたします。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたしますが、大きな第1の教員に関しますお答えは教育長より答弁させます。

大きな第2の小さな第1点目、老人保健福祉計画作成に当たっての現状把握調査についてでございますが、今年度に国から老人保健福祉計画策定指針、これが示される予定でございますので、これを受けて市といたしましては、地域の実情を踏まえ、調査を実施してまいります。

次に、小さな第2点目、市としての意見、考え方の御質問でございますが、この計画の骨子の中には広域的に検討すべきものもございますので、関係市町村等と協議しながら、地域に特性に合わせ、計画を策定する考え方でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

大きな1の教員の退職状況についての御質問でございますが、公立小中学校教職員の人事権は千葉県教育委員会の管轄になっておりますので、御理解をいただきたいと存じます。

まず、小さな1の定年制が実施されているかどうかとの御質問でございますが、千葉県の職員の定年等に関する条例に基づき実施されております。

小さな2、過度な退職勧奨をしていないかどうかということでございますが、学校職員の退職勧奨に関する取り扱い基準に基づいておりますので、過度の退職勧奨をしているとは認識いたしておりません。

次に、小さな第3点目、女性教員の退職年齢が低いと思うかどうかとの御質問でございますが、女性教員の退職時の年齢は個々の事情等により一般的に低くなっておるようでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 再質問いたします。

まず、老人福祉計画の方なんですけれども、いま一度確認をしたいんですけれども、国から今年度策定指針が示される——間違いないですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 間違いございません。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） ということは、前年度なんですけれども、11月末でしたか、厚生省から出された策定指針がございまして、それで当館山市も県に対してこの骨子についての意見等を上げたはずです。それによって、国が再度これに基づいてまた新たな策定指針を各自治体に示すということの理解でよろしいんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そういうことでございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） それは理解をいたしました。

小さな1点目なんですけれども、骨子によりますと、私も、雑駁ですが、

ちょっと読ませていただいたんですが、実際問題といたしまして、要介護者または援護老人の把握などについては1人1人に当たって調査せよとなっていると思うんですが、具体的にこれどう対応していくのか、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いわゆる調査票でございますけれども、この基本的な考え方は、全国 3,300の市町村に実行可能な計画をつくるということから、この調査項目については全国统一したものをつくろうというのが国のねらいでございます。それにつきましては、実際の実施の段階につきましては、それぞれの市町村の実情に合わせて、例えば当市では民生、児童委員の方々にお願いするとか、また特別に行政区の担当者という制度を持っておりますので、そういうところで調査をし、地域の実情に合った計画をしたいというふうに基本的には考えております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） これ現場の方がよくおわかりになると思うんですけれども、実際問題として、そうはいいまして、プライバシー問題確かに絡んできますので、実際的な本当のところの数字というのは調査できかねるんじゃないかなというふうに私自身も実は思っていますが、ただそういった方々の意識を変えていくということは——かなり広報等で最近とみに出されていますので、少しは変わってきたかなという気もしますけれども、やっぱりそういう行動というのはずっとこれからも続けていってほしいというふうに思います。

そして、この骨子の中で、例えば施設の入所者や病院での入院者、この方々が対象になっていないように私は理解したんですが、そちらではどう理解していますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この調査は基本的には一般の65歳以上の人たち、特にもう一方ではいわゆる要介護老人といいますが、そういう人たちの調査、この2本立てに基本的にはなろうかと思えます。それで、いわゆる後者の方

の要介護老人の調査につきましては、いわゆる在宅及び施設両方相まった調査になるということになるかと思えます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 確かにその言っていることはわかるんです。ただ、例えば入所者や入院者の方々でも将来的にお宅に帰れるということも出てくるわけですから、やっぱりそういったものも対象にした方がいいんじゃないかなというふうなことを思いましたので、ぜひこういうことをできれば意見の中なんかでもまた上げていっていただきたいというふうに思います。

先ほどお話ししました中に群馬の沢渡温泉病院のお話ししましたが、そこでもやっぱり70～80名の待機者がいる。それで、館山市には、広域圏ですけれども、特養老人ホームがございます。そういったところも結構空き待ちが多いというふうに聞いていますけれども、どの程度空き待ちをしているかという数はつかめていますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御指摘のとおり館山市では特老があるわけがございますけれども、ただ情勢がちょっと変化してまいりまして、本年度三芳の方でいわゆる老健施設——100人ベッドの老健施設ができてまいりました。そういうことで、現在いわゆる特老の方の入所待ち、そういう部分がかなり緩和されてまいりまして、現在のところは入所待ちはないんじゃないかというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 小さな2点目の方なんですけれども、厚生省のこの骨子を受けての意見、市としての考え方、確かに広域的に——関係市町村、広域圏ということになるかと思うんですけれども、たしか骨子の中にこういうふうに思わせるようなものがなかったんです。私も将来的にこれ広域圏が絡まないとやっていけないというふうに思います。だから、そういう考え方、姿勢を持ってこれからやっていくということに対しては一応評価をしていきたいと思えます。

それと、地域の保健医療計画というのがございますが、今県の方でしょうか、すり合わせ作業をしているんじゃないかと思うんですが、7月下旬ごろにでき上がると聞いているんですけれども、この老人保健福祉計画をつくるに当たってはこの医療計画との兼ね合いがやっぱり必要になってくるんじゃないかというふうに思うんですけれども、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御指摘のとおりそれぞれの地域で現地域医療計画をつくっているわけでございます。基本的には医療法に基づく都道府県が作成する地域医療計画——これは御承知のとおり医師の適正配分等の考え方を盛り込んだものでございますが、安房地域の計画はその一部ということで位置づけられているものでございます。したがいまして、この福祉計画とは若干異なる部分でございます。ただ、その中で今回の保健福祉計画、あくまでも保健ということの中で絡んでくる部分がございます。そういうことで、市町村でつくる場合にはこの安房地方の医療の計画と整合を図りながらつくっていきたい、基本的にはそういうふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） わかりました。

それと、この策定体制なんですけれども、私かねがね要望しておりますように、この体制の中に介護者を抱えている例えば家庭の代表の方や当事者、こういった方々を入れた計画策定委員会、つくるお気持ちがあるのかどうか伺いをします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 3月議会でもお答えいたしましたけれども、国の骨子の中での指針もあくまでもそういう地域のあらゆる関係者と協議をし、その組織をつくれということがございます。でございますんで、館山市におきましても今回の作成について、懇談会というような形で各種の関係者を取り込んで、いろいろな意見を聞きながらこの計画をつくっていききたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） はい、わかりました。本当にあらゆる層の関係者の方々とつくってほしいと切に要望をしておきます。

この骨子につきましては、専門家の方々や行政サイドの方々の中からも不十分で問題点があり過ぎるという指摘もされていると聞きますけれども、地域の声を一番反映する、そういった一番近い立場にいてつくるわけですから、どうか市当局におかれましてもだれの立場に立って計画を立てていかなければならないのか十分認識をされた上で作業を進めていただけるようお願いをいたします。

それで、答弁順ですから順序がちょっと変わりましたがけれども、教員の退職の状況なんですけれども、ちょっとお聞きしますが、定年制実施されているというのは条例に基づき実施されているとの答弁でしたけれども、正確な年齢はお幾つでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 60歳です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 60歳、そうですか。60歳定年制について教育長自身のお考えぜひお聞かせ願えればと思うんですが。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 退職につきましては、基本は先ほど申し上げましたとおり、そういう制度を運用するのは千葉県教育委員会でございますから。教員の退職につきましては、1つは定年による退職と、1つは50歳以上60歳未満の勤奨による退職と2つありまして、それぞれの条項を適用いたしまして退職をお願いいたしております。

60歳についての考えはどうかという御質問でございますけれども、もちろん定年まで勤めていただければありがたい、こう思っておりますが、その他の家庭の事情とか、それぞれの条件によりまして勤奨を申し出られまして、それを県教育委員会が適当と判断すれば勤奨の対象になり得る、こういうことになっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） そういうことじゃなくて、60歳定年制についての教育長のお考えをお聞きしたかったですけれども、市長さんもかつては教員でありました。そして、校長先生も歴任されて、元気にこうやって活躍をしていらっしゃる。そういうことから見ましても、私ども確かに60歳、まだまだ若いなという気がします。多分時代の流れと申しますか、高度の高齢化が進んできているこの時代に、やっぱり65歳定年制というのも本当にこれ法律化されるんじゃないかなというような気さえます。

そこでひとつお聞きしますけれども、この60歳というのが定年ということで、例えば直接教員の方に指導をしていかなければならないと思うんですけれども、だれが、あるいはどこが指導する権限を持っているのかお聞きをします。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 指導するというのはどういう意味かよくわかりませんから、再度お願いいたしたいと思えますけれども、教職員を60歳までやりなさいと指導するわけですか。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） そうです。先ほども申しましたように、60歳定年制というのはこれやっぱり指導されているんです、各事業所でも。普通の企業ですと。定年は60歳ですよ。今までは確かに55歳定年多かったです。60歳までなるべく働きなさいよ。それについてはその事業所に対してもさまざまな援助制度——国からも県からも援助制度が出ています。そういった意味で、どこが——例えば校長先生が直接教員の方々に指導するのか、それとも教育委員会あるいは県教委が指導するのか、その辺のことをお聞きしているわけです。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 具体的に申し上げますと、千葉県教育委員会安房地方出張所長が校長会等でその条例について説明し、それを受けて校長が各教職員にこういう制度がございますよということを説明しておるわけでござ

います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 指導はよくわかりました。

ここいらで言いますと県教委安房出張所ということですので、校長先生を最後に退職なさった方と女性教員として退職なさった方の年齢格差が非常に多いように思うんですが、どういうふうにお考えでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） それぞれの事情によるだろうと私は考えておりますけれども、勸奨による場合は、やはりこの基準等を拝見いたしますと、それぞれの家庭の状況、あるいは再就職の希望等、その他もろもろの情勢を判断をして、そして勸奨の対象にいたしなさい、こういうように書かれておりますので、それは学校長とその該当の職員との話し合いでそういう話が出てきたんじゃないかと思っておりますが、これはあくまでも推測でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） お考えについてはわかりました。

それでは、小さな2点目の過度の退職勸奨をしていないかどうかということなんですけれども、これ現実の声ですけれども、退職の勧めを断った。そうしたら担任を外された。あるいは校長室に何度も呼ばれた。そして退職を勧められた。これ生声であるんですけれども、どういうふうにお考えでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） そういう話は初めて聞いたわけでございますけれども、校長と職員とどういう関係にあったかわかりませんが、そういうことは私はないだろうと思っております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私この方に直接会ってお聞きしました。だから、確かに生声でございます。よく調査をされたいと思います。

一般的には教員の方共働きが非常に多くて、御主人が例えば校長先生にな

ると妻がやめていく、こういうことが当たり前というふうにされて、教員の方々の中で当たり前というふうにされていると聞くんですけれども、こういう常識についてどういうふうにお考えでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） そういう話は聞いております。しかしながら、御承知のとおり生徒数が非常に減少してまいりまして、教職員の定数というのは生徒数によりますものですから、それだけ職員が余ってくる、こういうのが現状でございます。そういうようなことからそういう話が出てきているんじゃないかと私は考えておりますが、やはりこういう過員——過員と私たち呼んでおりますけれども、職員が多過ぎる。過員状況を解消するためにはそういうこともあるのかなという気持ちがいたしております。

現在非常に安房地方は教職員が過員になっておりまして、しかもまた各ほかの方に行っております——北の方の東葛地方とか、あるいは千葉の方に行っておりますたくさんの教職員が家庭の事情——例えば結婚するとか家庭の、お父さんが亡くなったとか、そういうようなことによりまして、房州地方に、安房地方に帰りたいという教職員がたくさんおるわけでございます。そういうようなことも考慮いたしまして、そのような家庭の状況、家族の状況等を勘案しながらそのような勧奨がなされているんじゃないかな、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 確かに県教委の方でも生徒数が減少しているとよく言われます。しかし、現実にはこれかねがね——何月議会でしたか、せんだって話したこともあると思うんですが、夜10時、11時まで学校に電気がついている。仕事量が多いんじゃないんですか。生徒数が減少している一方で仕事量がふえているんじゃないんですか。家庭に持ち帰って徹夜して、寝ないで生徒に教えなきゃいけないという状況もあると聞いています。何か現実——県教委もそうなんですけれども、言っていることと実際に行われていることが何か違うんじゃないかなという私は認識を持っています。

それで、この中で今教育長の方から話がありました特に安房地方の方は過員になっているという話も聞きます。私今こんなお話を聞いていてよくわかったのは、県の方でも私は — 安房地方だけではなく、県レベルでも話を聞いてきましたけれども、安房の人事はひどいというような声さえ聞くんです。やっぱりこれ安房地方が過員になっているから、先生が多過ぎるからということなんですか。いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 本来ならば出張所長にお伺いしていただくのが一番いいと私は考えておりますが、とにかく安房、夷隅等は非常に過員になって苦しんでいるというのは確かでございます。それは間違いないと思います。その解決のためには何らかの手を打たなきゃいかんというのも事実だと思います。このままほうっておいたならば、全然新しい千葉大等を卒業する教職員がとれない、就職できない、こういうような現状が出てきているわけでございます、これは県教育委員会もいろいろな悩みを抱えているんじゃないかなと私は考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 私の今言いました発言、出張所長さんに会う機会があったらぜひこれを話していただきたいというふうに思いますけれども、やっぱりどういうふうに言われようと仕事量がふえているという現実があります、確かに。教育長もわかっていらっしゃると思うんです。まさか夜遅くまでだれもいないのに電気がついていとは思えませんし、やっぱりそれだけの仕事があるというふうに思うんですけれども、この退職勧奨なんですけれども、そういったことを言われながらみんなさまざま嫌な思いをしながらやめていっているという現実があるということを — 私本当に何か時代に逆行しているというか、何かそういう認識を持ったんですけれども、ぜひそういうことを細かい点までできれば調査をしていただきたいというふうに思います。

小さな3点目、女性教員の退職年齢の問題なんですけれども、いわゆる若

年退職というふうに言っているんでしょうと思います。女性教員は55歳をめぐりに退職をするというのが常識的になっているというふうに聞いていますけれども、どうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） やはり女性教員も本来ならば60歳が定年であるわけですから、そのような努力はなさっていらっしゃるんじゃないかと思えますけれども、やはり出張所長のそういうような配慮は確かにあるんじゃないかな、このように考えております。

ただ、55歳で全部やめなきゃならないということは絶対あり得ませんで、現実問題として55歳でやっていらっしゃる方も中にはあるやに承っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） それでは、この機会に私、生の声をさっきから話しているわけですから、こういう実態もあるということを教育長にはこれ本当に認識をしてもらいたいというふうに思います。ぜひお願いをしたいというふうに思います。

女性は55歳でやめることになっているというって校長室に呼ばれた人さえいるということも聞いています。こういうことから組合の定期大会でも議論になり、問題になるというふうなことだと思うんです。30年以上も一生懸命働いてきて、退職するときは気分的にも嫌な思いをすることなくすっきりとやめたいというのは、別に教員の方だけじゃなくて皆さんそうなんですけれども、労働省は今中高年の働く場所について、急速な高齢化の進展の中で65歳までの定年を打ち出していますので、ぜひこういうことのないように本当にお願いをしていきたいというふうに思います。

それと、県教委なんですけれども、千教組との交渉の中で、県教委の方の発言の中に、この話を聞いてよかった、参加をしてよかった、生の声を聞かせてくれて大変ありがたかったという発言があったというふうに聞いております。ですから、我が党も県議会におきましてもこういう要望、要請をして

いきますので、ぜひ館山の教育委員会におきまして、安房出張所が絡むと思いますけれども、よろしくお願いをいたします。

あと、この問題につきまして、退職されるときすっきりやめていないものですから、退職なさったとき、退職後に代替とか産休補助なんかの話がよく来るそうなんですけれども、こういう状態ではそれさえしたくないという気持ちを持っている方もいらっしゃると思いますので、こういうことがやっぱり悪循環になってそういう人の要員不足にもつながってくると思います。そういうことのないようによくこれから御指導をしていただきますようお願いをいたします。

質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

次、21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 質問に先立ちまして一言申し上げます。

自衛隊の海外派兵を進める国連平和協力法案——いわゆるPKO法案は、日本の進路を誤らせる憲法違反の愚挙にほかなりません。今ほど日本国憲法の平和原則の確認が求められるときにはありません。この法案を強行した自民、公明、民社の各党による暴挙を糾弾するとともに、我が党はその廃案を重ねて強く主張するものであります。自衛隊の海外派兵は憲法違反であります。

それでは、既に通告いたしました5点について御質問を申し上げます。

まず第1点はリゾート開発計画の見直しに関する質問でございます。現在のリゾート法は5年前に、我が党の反対にもかかわらず、自民、社会、公明、民社などの諸党の賛成で可決成立し、一時は日本全国リゾートブームとも言えるべき状況を呈しておりましたが、バブル経済の破綻とともに完全に行き詰まり、既に政府自身が運用見直しをせざるを得ないところに立ち至っていることは御存じのとおりであります。

そこで、館山市内の民間リゾート開発の現況はどのようなになっているのか明らかにしていただきたいと思いますのであります。

1990年6月の11日に林野庁長官通達が出され、森林法に基づく林地の開発

許可基準が改定されました。ゴルフ場の造成などの開発許可基準が例えば残置森林率を40%、土石の移動量について切り土、盛り土それぞれ 200万立方メートル以下とするなど新たな規制が行われ、これまでよりも大変厳しくなりました。この林野庁の新規準は2年後のこの6月の11日から完全実施となりましたが、大変に厳しい基準であるため、例えば鋸南町ではゴルフ場開発を計画していた企業に対して、町としてはこの基準をクリアする計画は不可能と判断し、計画の取り下げを業者に指導していくという方針が明らかにされました。

この新規準はこの6月の11日から完全実施となったわけでありましたが、太陽海岸平砂浦計画や南たてやまマリパーク計画のゴルフ場開発が比較的規制の緩い旧基準が適用される6月10日までに開発申請が受理されるのかどうか焦点となっております。この開発申請のためには開発区域内の権利者全員の同意が必要とされております。それらの同意が得られなければ申請は受理されないことになっております。6月10日までにそれらの同意を得て申請ができるのかどうかがこのゴルフ場開発の成否をめぐる当面の最大のポイントとなっていたわけであります。

そこで、既に6月10日は過ぎましたので、お尋ねをしたいと思うのであります。森林法の開発基準とリゾート開発計画の現況はどうなっているのか御説明をいただきたいと思います。

次に、平砂浦の自然環境保全と遊歩道等についてお尋ねを申し上げます。現在フラワーラインから浜辺に入る道が各所でふさがれてきたために、海岸までは容易にたどり着けなくなってまいりました。平砂浦は景色が大変に雄大、風光明媚な貴重なところですので、自然環境を保全することは大変に重要だと考えます。しかし、同時に観光客をシャットアウトするということだけでなく、例えば海岸までの遊歩道、トイレ、駐車場など最小限の整備をして観光客を快く迎えるということも必要なことではないかと思うのであります。いかがお考えでございましょうか。

次に、大きな第2点、那古大芝踏切の改良についてお尋ねをいたします。那古大芝踏切は第一中学校の南側に位置する内房線の踏切であります。現

況は遮断機も警報機も照明もなく、歩行者と二輪車がやっと通れるにすぎない小さな踏切であります。しかし、この踏切は幅員12メートルの都市計画道路那古－正木線の踏切でもあります。この踏切の拡幅整備なくしてはこの都市計画道路は寸断をされ、全く意味をなしません。市の計画からすると、現況は余りにお粗末過ぎると言わなければなりません。この踏切の改良整備について市はどのように考えているのでありましょくか、御説明をいただきたいと思うのであります。

大きな3点目は学童保育の実施についてであります。小学校低学年児を対象にした学童保育実施についての検討はどのようなになったのかという点についてであります。この問題はこれまでも再三この場で取り上げ、市の対応をただしてまいりました。前向きということは言いながらも、なかなか実施に向けての具体的な御答弁がいただけないできております。もうそろそろ実施に向けての具体的なお話があってもよいのではと思うのであります。市の検討はその後どのようなになっているのか御説明をいただきたいと思ひます。

大きな第4点はごみの減量化と一般家庭の手数料の無料化についてであります。過日NHKテレビでごみ減量をテーマにした特集番組をしておりましたが、その中で岐阜県高山市の実例が紹介されておりました。ここでは、この4月から市からシールが配付され、ごみ出しにはごみ袋にそのシールを張って出すことが義務づけられました。このシールは毎年一定の枚数が無料で各家庭に配付されますが、それを使い切ってしまうと、このシールは買わなければなりません。一般家庭においては通常のごみ量であれば無料だが、それを超えてたくさんのごみを排出する場合はシール代として料金の負担をしなければならないというシステムであります。この結果、4月のごみの量は3分の1程度少なくなったというのであります。まだこの制度は発足したばかりであるために、簡単には評価は定まらないとは思ひのであります。私は家庭から排出する一定のごみ量については無料とし、それを超えるごみには有料化ということで、各家庭からのごみの減量を目指した点は注目すべき点があるのではないかと思うのであります。

当市の場合では、毎月200円あるいは100円の手数料を払いさえすれば、

事実上排出する量に関係なく市で収集をいたしますが、この制度では、ごみの単なる有料化ということはあっても、最も重要なごみの減量化に結びつく契機がありません。市はこれまで私のごみ無料化を求めた質問に対して、ごみに対する関心を持ってもらうために有料とするとの答弁をしてまいりました。私はこの際この有料化自体についても見直しをし、一定の量以内については無料とすれば、むしろごみ減量の契機となるのではないかと思うのですが、いかがお考えでありましょうか、御意見をお聞かせ願いたいと思います。

第5点は市の労働行政についてお尋ねをいたします。パートで働いていたが、突然あすで店を閉めるからもう来なくてよいと解雇されたが、補償など要求できないものかということで市民から相談を受けることがありました。未組織労働者の場合、こうした場合に頼るべき労働組合もなく、いわば泣き寝入りを余儀なくされることが実際は大変に多いのではないかと考えられます。市の労働行政を見た場合、本来最も弱い立場にある未組織労働者の保護に着目した施策が大変に弱いのではないかと思うのであります。

そこで、市民の身近でこうした労働問題について相談に乗れる労働相談員の制度をつくり、未組織労働者の相談窓口にしてはどうかと思うのでありますが、いかがでありましょうか。

次に、市の労働者福祉施策の現状についてお尋ねをいたします。市は本年度の予算でも勤労者団体補助金 160万円を計上しているわけでありましたが、この補助金については、1988年の9月市議会、決算の質疑の中で私は勤労者の福祉に使われていないのではないかとその問題点について指摘をしてまいりましたが、この問題点は現在時点においても解決されていないように思うのでありますが、市はこの補助金がどのように労働者の福祉になっているとお考えなのか御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、リゾート開発関係の第1点目、森林法の開発基準と開発計画の現況についての御質問でございますが、去る6月10日に南たてやまマリンパーク計画、太陽海岸平砂浦計画のそれぞれの事業者から森林法に基づく林地開発申請が千葉県安房支庁産業課に提出され、受理されたところでございます。今後は都市計画法に基づく開発許可申請の手続が必要でございます。

次に、小さな第2点目、平砂浦の自然環境保全と遊歩道等についてでございますが、平砂浦の自然環境保全につきましては、自然公園法に基づいて第2種特別区域に指定され、また保安林としても指定されているものでございます。市といたしましては、平砂浦の自然景観は貴重な観光資源でもございますので、適正な保全を図ってまいりたいと考えております。したがって、現時点では遊歩道等開発についての考えはございません。

次に、大きな第2、那古大芝踏切の改良についての御質問でございますが、現在の都市計画道路の整備方針といたしましては市内外郭幹線道路を主体に整備しているところでございます。本路線の整備は長期計画の中で実施してまいりたいと考えております。しかしながら、当地域の雨水排水対策として那古下水路改良工事を計画しておりますので、当踏切につきましてはこの改良計画に合わせ、東日本旅客鉄道株式会社千葉支社と協議してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3の学童保育の実施についての検討はどのようなになったかとの御質問でございますが、今年度調査旅費を予算措置いたしましたので、他市の状況を視察し、実際に運営している現場の意見等を聞き、実施方法、実施場所、指導員等個々の問題について具体的に検討を進めてまいります。

次に、大きな第4、ごみの減量化と一般家庭の手数料の無料化についての御質問でございますが、ごみ処理手数料は受益者負担の原則に基づきまして負担していただいておりますので、無料化については考えておりません。

なお、多量に排出するごみにつきましては、自己搬入または業者による搬入の指導をし、市民に分別収集を徹底していただくことによりましてごみの減量化、再資源化に努めてまいります。

次に、大きな第5の市の労働行政についての小さな第1点目、パートなど

未組織労働者の労働相談員制度についてでございますが、パート労働者などのための労働相談員につきましては、労働省が県に委任し、これに基づいて県知事が相談員を委嘱することになっております。当地域におきましては、安房支庁内にあります労働相談所に相談員が配置され、業務に当たっております。市といたしましては、これら関係機関と連絡を密にしながら対応してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、勤労者団体補助金の補助目的及び事業内容についての御質問でございますが、勤労者の健全な組合活動を促進し、勤労者の福祉の向上、明るい職場づくり、労使関係の安定化等を図る目的で安房地区労働者福祉協議会を窓口にして事業の助成を行っているものでございます。その事業内容につきましては、生活相談業務、各種学習会、体育大会、レクリエーション等さまざまな活動がなされ、多くの勤労者が参加しております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前11時39分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数25名、休憩前に引き続き会議を開きます。

神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） リゾート開発の関係で、6月の10日付で太陽海岸平砂浦計画あるいは南たてやまマリパーク計画については森林法に基づく申請がされ、受理がされた、こういうことでありますから、2年前に出された森林法に基づく基準の2年間猶予期間ということで、ぎりぎりの最終盤のまさに駆け込みということで、セーフということになるんでしょうけれども、かなり無理をしてぎりぎりのところだったなということだろうと思うんですが、そこで新規準に基づくんだとすると、どうしても6月の10日までにしなければならなかったという事情があらうかと思うんです。具体的には、残置森林率については新規準で新たに40%ですとか、あるいは土石の移動量につ

いては 200万立方だとか、あるいは造成森林合わせて50だとか、いろんな新しい基準が出されたように思うんですが、これはどうしても6月10日にしなければならなかったというのはこうした新規準に抵触するからではないかなと思うんですが、新しい基準に沿ってみた場合にはどういうふうになっておるのか、それらの具体的な数字について御説明いただきたいと思うんですが。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

新規準になりまして一番大きな問題は、今御質問にもございましたように土量の移動でございます。新規準につきましては 200万立方メートルというような限度があるわけでございますが、現時点での計画で2つの計画があるわけでございますが、土量で申し上げますと、南たてやまマリパーク計画につきましてはおおよそ 500万立方メートル、太陽海岸平砂浦計画は 380万立方メートル、こういうことでございます。

それから、森林率等の関係につきましても、面積を広げなきゃならぬというような条件がございまして、今までの計画の経過から申し上げまして、旧基準でなければなかなか難しい、こういうことでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 現在出されて受理された計画では、土石の移動量ということで、それだけ自然に対する改変といいますか、自然に対する変更といいますか、そういうものの量が今度の規制の対象になっている。そうすると、南たてやまの場合には 500万ということですから、規制の倍以上、また太陽海岸の場合でも 380万ということ、約倍ということで、これは非常に大きなことだろうと思うんですが、これはそうすると、現在6月10日でぎりぎりだから、これらの基準についてはこれまでなかったものだから、これはこのまま認めるんだ、こういうふうに理解をしていいものかどうか。あるいはさらにこういう趣旨もあるわけで、いろいろな指導の中で、できる限り自然に対する改変については少なくするようにですとか、あるいは森林率の問題につきましても、これまで残置森林率という考え方がなかった中で、こうした考え方を入れて、できる限りそれに近い形で指導をしていくとか、その

辺のお考えは全くないのかどうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

今まで進められてきました計画はあくまで旧基準ということを前提に進められてきたわけでございますし、今回林地開発の申請をクリアしたということは相当の地権者の方の御同意もあった。こういうことを踏まえまして、いわゆる旧基準でこれを進めていくという考え方には変わりはありません。

ただ、環境の保全ということは、これはもう基本的には重大なことでございます。そういう意味で、両計画につきまして、残置森林、それから造成森林合わせまして50%以上は現時点での計画では確保するという事になっております。

そういうことでございますけれども、それから土量の関係でございますが、これは極力、できる限り移動は少なくするように、そういう指導はしてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） このリゾートの問題については、バブル崩壊という中で、企業が次々どこでも撤退をしていくという、こういう全く今までと違う局面も生まれているわけでありましてけれども、市としても一生懸命企業に期待をかけていながら、しかし同時に、従来このリゾート開発というものは、ゴルフ場を中心とした開発によって、その会員権の販売、これが資金的にも非常に大きな計画の中心になっていた。ところが、このゴルフ場の会員権が一時の半分というような水準にまで価格が低落をする。また、各地でいろんな不祥事も出てくる。こういう問題が出てきている中で、会員権販売に対する規制とか、こういう立法措置の問題ですとか、新たな問題が生まれてきている中で、果たして従来の会員権販売を中心とした資金を柱にしながら――総合的なリゾート開発ということについては非常に難しい問題が生まれているんじゃないか。端的に言って、企業にとってはもうからないんじゃないか。こういう中で今の各地での撤退という問題が出ていないか。

そういう点から見た場合に、館山のこの企業が撤退をしていくということは全く考えられないことだというふうに市では受けとめているのか。その辺はどうお考えになっていますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 御指摘のようにいろいろ情勢も変わってきているわけでございますけれども、私ども今回の林地開発申請を通じまして、2つの企業とも撤退する意思はないということでございますので、そのように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 現況でもゴルフ場だけならばなかなか資金的にもかなりいくであろう。しかし同時に、館山市がこれまで言っていたのは総合的な開発ということを言っているわけですが、結局はそこまでやると資金的にも採算的にもとれないという、こういう心配が当然企業の立場からすると出てくるだろうと思うんですが、その辺についてはかっちりとした企業との間での協定なり話し合いでの覚書なり、そういったものがあるというふうに理解していいんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えいたします。

現時点ではそういう覚書、協定等はありません。ただし、今後そういう——懸念と言うとちょっと言葉は悪いかもわかりませんが、そういう意味で、いわゆる担保というような形でそういう協定等の締結につきましては検討していく考えでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 次に移りますが、平砂浦の自然環境の保全と遊歩道ということでお尋ねいたしましたけれども、先ほどの御答弁では現在時点では遊歩道等について考えはない、こういう御答弁で、何か現在時点ではというのは、これはどういうふうに理解していいのかわからないんですけれど

も、現状でも一部自動車が入ったりとかいう話も聞きますし、これは環境保全上ゆゆしき問題を持っているわけです。むしろ遊歩道を整備して適正に誘導していく方が自然環境の保全ということからしてもむしろ好ましいことなんじゃないかな、その辺での調整という点からは現在の状況というのは非常に問題があるんじゃないかなと思うんですけども、その点については認識を持っておりますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

神田議員さん御指摘のように、現実的にはフラワーラインの沿線に車をとめまして人が出入りしているというケースにつきましては承知いたしております。特に、佐野川の護岸につきましては、車どめがあるんでございますが、それをよけて入っているというようなケースも私ども確認はいたしております。

市長答弁でも申し上げましたように、平砂浦は白砂青松 100選というような中にも選ばれて、やはり保全をしていくべき地域であるということは、これは大前提になろうかと思いますが、1つには観光資源というような見方もあるかと思うわけでございます。ただ単にその遊歩道というような、いわゆる局部的な開発といいましょうか、そういうものでいきました場合に、例えばトイレ、休憩所、こういうようなものを設置するいわゆるスペースの問題とか、それから御承知のようにあそこの下の海岸は、夏は海水浴に入っていられる方もおられるわけなんです、実際には遊泳禁止区域ということになっております。そういうこともございますので、あそこの資源を活用するというような考え方が今後出てこようかと思うんでございますが、局部的ではなく、あの地域全体をどう活用していくべきかというようなことで、ひとつ今後の課題にさせていただきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そういう意味で現在とはということで理解をさせてもらいまして、将来的な問題ということで、大きな計画の中で考えていき

いんだ、こういう意味で一応理解をしておきたいと思います。

次に、那古の大芝踏切の関係でありますけれども、先ほどの御答弁によりますと、長期計画の中でこの踏切にかかわる都市計画道路の整備を進めるというお話でありましたけれども、長期計画では都市計画で12メートルの幅員ということですから、現在の海岸道路と同じ幅員の道路をつくと、あその場所に、ということだろうと思うんですが、それは確かに長期計画ということで、いつのことになるのかなと思うんですが、同時に那古下水路が——それに沿ってある那古下水路には——この改良計画に合わせていきたいということで、そうしますと大体、私もざっと見て、6メートル乃至7メートルぐらいの幅員が——道路と、それから下水路のふたかけということをやりますと、6～7メートルの幅員の道路ということになるんじゃないかなと思うんです。

そういう中で、鉄道会社のJRの方と折衝をしていきたいというお考えでありますけれども、その際にはどういう考え方で折衝をしていくお考えなのか、そこをお尋ねしたいんですが、結局当面6メートル乃至7メートルの幅員の道路をここにつくりますよ。そして、ちょうど国道127号と海岸通りを結ぶ、接続する道路として当面は整備をしていきたいんだ。したがって、そういうことでJRの踏切としても協力してもらいたいという、そういうことで協議をしようとするものなのか、その辺お聞かせいただきたいと思うんですが。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 御指摘の都市計画道路でございますけれども、これについては長期計画で行っていかうということでございます。とりあえず排水路の計画でございますけれども、大体今のことでいきますと、5年から6年にかかるんじゃないかという感じがいたします。これはあくまでも財政的な問題でございますけれども。

それから、実は8015号線——館野小学校のところに踏切の改良があったんですけれども、そのときにJRの方から平面交差はこれが最後だよという引導を渡されたんですが、それについても大分お金がかかりまして、大体3,0

00万から 4,000万かかったわけですがけれども、特に自動障害物の探知装置というのが 1,100万ぐらい、これはやはりそこでも義務づけられるんじゃないかしらと思うんです。いずれにしても改良工事が下へ入りますので、なるべく早い時期にそれを排水路としての道路幅でお願いしていこうと思いますけれども、大変な問題だと思いますけれども、あくまでもやはりやっていかなきゃいけないことですので、オーバースパンなんていうとんだことになりますので、これから協議していきたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 踏切ですからJRとの間の話ということで、ちょうどこのところがそれだけの幅員の道路がつくれるということにもある意味ではなろうかと思しますので、ぜひ — 1,100万円ぐらいで踏切ということで、踏切の工事費がかかるというお話でございましたけれども、地元の負担という、市の負担という形でこうしたことをやれば、非常に道路体系からいっても、国道と、それと海岸通りとの通行という点でも、地域交通の上でも大きな意味を持つところですので、ぜひ検討をして、ぜひJRとの間の話をうまく進めていっていただきたいと思うんであります。

当面とりあえず — あそこは暗くて危ないんです。非常に危ないです、現況では。踏切をつくる上で、警報機だとか遮断機となるとそういった問題があると思うんですが、とりあえずあそこは — 照明などというのはすぐにつけられることではないかと思しますので、そうしたとりあえずすぐできる手だてもとっていただきたいと思います。

次に、学童保育の問題でありますけれども、この学童保育についてはこれまで前向き、前向きと言ってずっと前向きなんです。ずっと前向きで、私調べたら、90年の12月の市議会で前向きというのを初めて言ったんです。それからですから、もう2年過ぎて — 2年までならないですか、前向きの答弁がずっときているわけで、今回も御答弁では実施の方法、そうした問題について引き続き調査をしていきたい — これは91年の3月にもそういう答弁したし、12月でもそういう答弁をしていたんです。ですから、どういうふう

前進しているのかな、前向き、前向きと言いながら何がどう前へ進んだのかが明らかでないんです。もうはっきり — ゴールはいつなんですか。いつ実施するということで現在の検討が進められているものなのか、この辺はもうそろそろ具体的なお話をする段階ではないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 学童保育に対します実施時期についてのお話でございますけれども、現在のところはまだ市長が答弁いたしましたとおり検討をしているということでございます。その検討の方法もより具体的になりまして、本年度調査旅費等をお願いいたしましたんで、具体的に、県内のいろいろのケースがあるわけでございますんで、そこらをじっくり検討して、それから実施時期を決めていきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） それじゃあお尋ねいたしますけれども、県内視察をやって、いろいろ実施しているところを見て、そして館山市でというお話で、具体的な段階なんだということでもありますけれども、具体的だと言うならば、一番基本的な問題は直営でやるんですかということなんです。そういう意思をお持ちなのかどうか。県北の地域では直営でやっているところは余りないんじゃないかな、少ないんじゃないかなと私も思うんですけれども、直営でやることを前提に視察を進めようとしているのか、それともそうではなくて、民間でやっているのに対して補助という形でやっているところを視察しようとするものなのか、その辺の方針が決まっているんだかどうかなんです。要するに、市自身としては直営でやるんだという腹があるのかないのか、これがはっきりしないから話が進まないんじゃないかなというふうに思うんですけれども、その辺いかがなんでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この学童保育の実施の方法につきましては大きく分けて2点あるわけでございます。議員御指摘のとおり、市が直営する、または委託する方法が1つでございます。もう一つは、民間にお任せして市

が単独で補助をするという方法が1つでございます。前者の場合につきましては御承知のとおり県、国の補助がつくわけでございますが、後者の場合についてはそれらの補助がつきません。問題は補助がつくつかつかないかの条件の中に対象の児童が何人いるかということになるわけでございます。20人以上の場合に国が補助をする。10人以上の場合は——10人から20人までの間は県が国の補完をして補助をする。10人以下の場合は現在のところ補助の対象になっておりませんので、全く補助がないという形になるわけでございます。

したがいまして、そういうようなものも——館山のケースにどういうものが一番合うか、適切であるか、そういうものを先進地を視察して、ノーハウをじっくり見て、それから基本的な考え方を決めたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） じゃあ決まってないわけですね、直営でやるかやらないかというのは。先進地というのは直営でやっているところを見に行くんじゃないんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在のところいろいろ——直営でやっているところ、また補助でやっているところ、そういうものをいろいろ見まして決めていきたいというふうに考えています。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） いずれにしてもやるということで考えていいんですね。

これはそうすると、結論は、かなり具体的に進んでいるということでありますから、新年度——来年の4月には少なくとも実施という腹で現在進めているということで理解していいですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） じっくり検討させていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 何年越しの話ですから、じっくり検討するのは結

構ですけれども、ちゃんとした時期に結論は出していただくようにひとつやっていたきたいと思います。

ごみの問題でありますけれども、先ほどの御答弁は私大変重大な — これまでの市政の考えの変更があったということで、私は改めてその考えはどうなのかということでしたしたいと思いますけれども、先ほどのごみの減量の問題の御答弁の中で、有料化については受益者負担の原則に基づいて行っただ、こういうのが市の考え方だと言うんですが、私自身は館山市が受益者負担の原則に基づいて有料化という御発言は今まで聞いた覚えがないんです。半澤市長がこの問題で議論していた中では、ごみに対する関心を持ってもらうために有料にしているんだ、こういう答弁を再三言っていたわけです。受益者負担の原則ということになると、これは現在のごみの手数料ではとてもとても話の違うことであって、今のごみの手数料の数倍の料金を取らなければ受益者負担ということではつじつまが合わない、そういう大変重大な問題持っていると思いますので、これは何かの間違いじゃないかなと思うんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 手数料をいただくということの中ではやはり受益者負担というのが当然入ってくるわけでございますが、具体的には — ただいま議員さんが受益者負担の原則は聞いたことがないというようなお話でございますけれども、昭和61年の3月議会にやはり議員さんがごみの手数料について御質疑をいただいたその中でもやはり受益者負担というニュアンスでお答えしておりますし、またこれをつくった、手数料条例をつくりました昭和51年3月、この時点でも渡辺軍治郎議員さんと半澤市長さんとのやりとりの中でやはり受益者負担についての御議論があるわけでございます。そういうようなことから今回の答弁になったわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 受益者の方に、受益を得られる方に一部の負担をしていただくという意味で今の料金は — そういう答弁はありました。けれども、受益者負担の原則という、こういう答弁とは意味が違うんです、こ

れは全然違う話ですから。ですから、今のこの問題については、あくまでもではこの料金については受益者負担論という、こういう考えに基づいてこの料金は設定をする、こういうお考えに市は立つということなんですか。そういうことではないというふうに理解するんですけども。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） このごみの手数料でございますが、昭和51年度からだったと思いますが、有料に — それまでは無料だったわけです。そのとき出発は受益者負担の原則ということで無料から有料になったわけでございます、出発は収集経費を除く、それから処理経費の人件費を除いた分を負担していただくということで出発したわけでございます。最近になりますと、さっきも議員さんおっしゃいましたようにとても追いつかないわけです、手数料では。ですから、今は必ずしも受益者負担、全額を受益者負担に回しておりませんが、それは一般財源から補てんしているわけです。ですから、一時期には有料になることでもってごみに対する認識を深めていただくというような答弁もしていると思います。しかし、そうかといって、じゃあ受益者負担の原則をあくまでも貫くんだということで、総額を受益者負担に回すということもちょっと、これは経済的な負担が市民に多くなるということで、その辺は十分考えながら進んでいきたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そこで、このごみの手数料については、88年に鴨川市が無料にしたということがありまして、それ以降、現時点でごみを有料にして取っているというのは県内でも館山市と富津市しかないんじゃないかと思うんですが、いかがですか。現在県内30市の中でごみを有料ということでやっている市はどこどこか、お調べがあったらお願いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 市の中では館山と富津でございます。ただし、80市町村の中では15有料の部分があるわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） ごみの問題というのは、単に料金の問題というば

かりか、ごみの減量化という根本問題がありますから、私はこの料金問題はごみの減量という問題と兼ね合わせた中で議論をしていかなきゃならないなということで先ほどの提案をしたわけで、今後こうしたごみの減量ということで引き続きこの問題については議論もしていきたいということを考えておりますので、よろしくお願いします。

次に、労働行政の関係でありますけれども、先ほどの御答弁の中で生活相談とか労働者の労働相談についていろいろと制度的にどうだ、こうだというお話がございましたけれども、と同時に現在でも市の補助金 160万円の中では生活相談業務ということで、その業務に対する補助金が支出されているんだということでありましたけれども、具体的にこうした相談業務ということでできるんじゃないんですか、市町村がそういう事業を行うことに対して。いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えいたします。

市長答弁にございましたように、労働相談所、これは安房支庁に設置をされております。安房中小企業労働相談所ということでございまして、月曜日から金曜日まで、特に水曜日につきましては、これは労働基準監督署とか、そういう知識のある方が相談に当たる。ほかの曜日につきましては安房支庁の商工労政課員が当たるということでありまして、今までの相談件数ちょっと申し上げますと、発足当時の昭和58年は12件あったそうでございます。それ以降、平成元年度は2件、2年度4件、3年度5件——これは年間でございますが、そういうようなことでございまして、内容を申し上げますと、特に苦情ということではないというようなことでございます。

ただ、私も考えますに、こういう制度がある、またこういう相談所があるということが周知されていないのではないかな、そういうようなことも考えますので、相談所の方と協議いたしまして、もうちょっと皆さん方に周知をするようなPR等を考えてまいりたい。そういう中で、さらにまだ問題が残るようであれば、相談所の方とまた協議をするなり何なりして対応は考えてまいりたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 現在支出している労働団体への160万円の話でありますけれども、これが具体的にどのように使われるかということで、スポーツ大会とか、そういう事業についての補助だということがございましたけれども、私はスポーツ大会については、これは県の方で予算も支出しているというふうに伺っておりますし、むしろ未組織労働者といいますか、非常に弱い立場、労働組合を持たない、そうした未組織労働者に対する福祉ということに着目をしながらむしろ市の労働行政を進めていく。これまでややもすると組織労働者中心になりがちであったものをそこに転換する必要があるんじゃないかなと思うんですが、その1点についてだけお伺いして、おしまいいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 答えをいたします。

勤労者団体補助金でございますけれども、これを交付しておりますのは安房地区労働者福祉協議会でございます。この福祉協議会のいわゆる会員でございますけれども、組織労働者が24団体、3,250名、それから個人——いわゆるこの個人というのは未組織労働者の方ではないかと思えますし、そういうふうに聞いておりますが、367名。いろいろな行事等に参加をされている、こういう福祉協議会の中では未組織の方も参加をされている、こういうふうに私どもは理解をいたしております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

次、15番議員山中金治郎君。御登壇願います。

（15番議員山中金治郎君登壇）

◎15番（山中金治郎君） 発言のお許しをいただきましたので、私はさきに通告いたしてございます3点について御質問を申し上げます。

まず第1点、各種行事のあり方について。集客力のある大型イベント化し、より効果的に行うこと。そのため、現在のように各主管課ごとに行うことをやめ、特定のセクションで統一し、企画、施行することができないかという

点と、さらに各行事に伴う経費について、もちろん市主催のものは一般的な予算支出となるでしょうが、事業委託や補助事業による行事についても、恣意的な予算計上ではなく、公費である以上公平かつ整合性のある負担とするため、経費支出の統一的な基準を設定し、予算計上されて事業執行をされたいという点でございます。

さて、現在市で例年実施されております行事は年間を通じて――私も若干関係を持っておりますが、市民まつり的なものから産業まつり的なもの、文化的なもの、消費者まつり的なもの、その他大小さまざまな形で行われております。それぞれに目的があり、また歴史もあり、それぞれに成果を上げていると考えますが、一市民という立場から眺めますと、まことに残念ながらその分野の人たちだけの盛り上がりで、全市民的な発想での行事の持ち方が今までは少なかったように思われます。よく耳にする言葉にアリの祭りにも行きたがるということがありますが、アリも2～3匹では見る人もいませんが、200、300匹も行列をつくって動いていれば立ちどまって眺める人もおりますが、こんな発想の転換も必要ではないかと思えます。こんな観点から、異業種間の各行事を統一し、年何回かに分けてイベント的に行き、市内の方々が多数集まれるような、このようなことを検討しなければならないところにきているのではないのでしょうか。このため、各主管課ではなく、特定のセクションで多視的な立場から各行事を企画、執行することがより必要ではないのでしょうか。

これらの点について、前に同僚の山崎議員から御質疑されたと記憶いたしておりますので、十分御検討されたことかと存じますが、市長さんの御答弁をいただきたいと存じます。

次に、各行事に対する市の支出や補助金が税を主体とする公費である以上、常に公平的、かつ均衡のとれた整合性のある支出や補助金でなければならないと存じます。これは地方財政法第3条に、法令の定めるところに従い、かつ合理的な基準によりその経費を算定し、これを予算に計上しなければならないとあり、また第4条にはその目的を達成するための必要かつ最小の限度を超えてこれを支出してはならないと規定されており、これらの点から、こ

これらの予算計上については部長査定、助役査定、市長査定と査定、承認され、編成されていくものと存じますが、3人の査定者がいれば三様の見方、考え方など認識の相違もあることでしょうし、事実各行事ごとに公費の負担割合は区々まちまちであります。これを市民サイドから眺めますと、納めた税金が適当に使用されているという誤解を与える結果になります。市民の立場に立てば、納めた税はそれぞれの施策に投資還元され、やがて自分たちの福祉向上につながり、それによりまた元気にそれぞれの分野で働いて税金を納めていくというサイクルになっているのであります。ちょうど経済学の上からの賃金と労働分配率の関係と同じ考え方であろうと思います。行政的に言えば、産業投資が少なくなれば産業分野での税負担は減少していくということになります。このような市民サイドからの一つの見方もあります。

こんな視点から、その行事に対する経費負担については、その行事の内容を精査し、必要経費の算定、経費に対応する補助率を定めた基準設定が望まれますが、これに対して市長さん、どうお考えかお伺いいたします。

次に第2点、地域の活性化を図るため、町村合併を推進していく考えはないかということについてであります。最近全国的規模で市町村合併の動きが活発化し、戦後の町村合併に続く第3次合併ブームの到来かと言われております。関係市町村は実に250数市町村に上り、そのねらいとするところは大別して3つの類型に分かれ、中核都市型、小町村の大同団結による市制施行へと、一部に100万都市となり、政令指定都市を目指すものと大別されておりますが、その背景にはいずれも地域の活性化のための新しい都市づくりが必要であると考えられております。この250数市町村の中で中心となる市が65市ありますが、これは全国の都市の数の約1割強の都市が合併構想を持っているということになります。

昨年12月発売の週刊東洋経済誌による91年版の全国662都市の成長力ランキングから人口別に都市の数を調べてみますと、一番多いのは人口10万以上の都市で、224市で、全体の33.8%、次が5万以下で、216市で32.6%、その他が5万人台、6万人、7万人、8万人、9万人台で、合計で222市ほどで、33.6%と散在をしておりますが、今回の市町村の合併構想の中では人口

が5万から6万の市が10万人台の中核都市を目指して推進しているものが多数あります。

私はさきの通告質問で人口問題について御質疑を申し上げましたが、総合計画の前身と言うべき昭和39年の市勢振興調査では、目標年次を設定せず、将来展望として10万人を予定し、42年度の長期振興計画では、基準年度を35年とし、昭和60年度を目標として人口7万人を、さらに49年度の総合計画ではやはり60年度を目標にして人口は6万6,000人に、昭和61年の総合計画では75年を目標におおむね6万人と、計画を作成するごとに目標値を下げてきております。これは夢だからと思っているかも知れませんが、この最低に落ちた6万人の市人口の目標値も、実際の人口推移から見れば夢でなくして幻に近い数字であります。現在の市人口から見ればわずかに5,426人の増加となるでしょうが、昭和29年、近隣6村合併して得た5万9,416人の人口を、平成2年の国勢調査まで実に35年間の長きにわたり歴代の市長さんが施策をされた結果として4,842人が減ってしまい、当時の人口の91.8%となってしまった事実はだれも否定できないでしょう。

人口の動態は経済の発展の基本的指標であり、現在の自由主義市場制の経済上から人口の条件は購買力の問題と直結し、商工業はもちろん、農林水産業をも巻き込んでいく重大な問題と認識されなければなりません。前の議会で私は零細小売業への早急な施策を要望いたしました。市場が狭ければ自然に過当競争化し、それがさらに超零細化と小規模化し、経営の先行き不安感から後継者不在へと進んでいくことは経済原則の上からも必然的なものであり、既に当市内にはこのような現象が大きくあらわれております。さらに、行政的に申し上げますと、人口の規模の拡大により、行財政の基盤の強化、行政経費の節約、年度間財源の効率的な運用等から市民の生活向上のため資するものは大きなものと存じます。さきに申し上げましたランキングによりますと、当市の市場力は662市の中の351番目で、どうしても地域経済の活性化が求められていると存じます。

こんな観点からも市町村合併は考えられなければならないと存じますが、当市より各自治体に対しこれを提唱し、推進していくお考えはないかどうか

お伺いをいたします。

3点目、最後に消防団員の士気高揚のため、公費負担を明確化し、その増額を図られたいということでございます。いつの総合計画にも消防団関係では、地区関係者の協力を得て若年層の入団を積極的に進めるとともに、各分団の管轄区域の見直し及び再編成を検討する、このような意味が書かれていますが、残念ながら現在の当市の場合は団員の獲得には非常に困難を来している現状であります。これは先ほど申し上げました人口の減少、若年層の市内外の事業所への勤務などにより、時間的制約に加えて報酬額の低さなどが絡み合いつつ、団員の獲得を難しくしていると思います。

御承知のように、消防機関としての消防団経費に関しましては、消防組組法第8条に市町村の消防に要する費用は当該市町村がこれを負担しなければならない旨の規定がありまして、住民負担に転嫁させないということになっておりますが、ほとんどの地区で消防後援会費などいろいろの名目で消防団経費に多額の負担をいたしております。生命、財産の自衛観念から、公費負担が法的にできない経費については市民は喜んで拠出、負担するものと思いますが、最近この公費負担という法の精神が生きていないような公費負担の実態がただいま申し上げました団員の獲得の困難さ、各地区での消防団経費の負担の増大につながりを見せておるのではないのでしょうか。

本年4月改定の消防団員の報酬も、年額で言えば3万1,000円ですが、月額にしますと月に2,583円、団長の報酬でさえ月に1万6,750円であります。役所では余り適用する職員はないと思いますが、最低賃金法という法律がありまして、これに基づいて労働基準局長の公示した県の最低賃金は日額にして4,420円、時給で552円であります。人を使ったら必ずこれだけは支払わなければならないという金額でございます。もちろん労働ということではありませんから、消防団員に適用されるということではありませんが、働いている消防団員は、労働者として働いておれば最低これだけはいただいておりますから、場合によっては死という危険を持つ消防団員として入団を勧誘することの困難さは明らかでしょう。

費用弁償額にしても同じです。火事場で消火活動に従事して、何時間かか

っても1回分として1,400円、しかも場合によっては——これは予算現額との関連でしょうが、それ以下の市長が定める額とは余りにも経済社会とかけ離れた感覚ではないでしょうか。さらにまた、消防組織法に定める市町村が負担しなければならないという立法の精神から妥当と言える額でしょうか。そして、これはすべて各地区の消防後援会等にしわ寄せされ、膨大な負担をせざるを得ないのが実情ではないでしょうか。

平成2年度では使い道のないまま5億6,991万余円が繰越しをされておりますが、現在の消防団員の総数は420人ぐらいでしょうから、この繰越額の10分の1か、いや、たとえ5%の金額でも現在の経費の倍ぐらいの額が計上できると思いますが、市長さんは法律の規定を守り、消防団員の士気を高め、市民の生命、財産を守っていく気があるのかどうか、率直なお気持ちをお聞かせいただきたいと思います。

以上で質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの山中議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、地域行事の問題でございます。その小さな第1点目、各種行事を統一し、大型イベント化し、総合的に実施してはとの御質問でございますが、現在市や関係する団体が主催または共催する行事及び各種団体主催の行事等が各分野にわたり展開されております。それぞれにその目的、歴史、伝統の中で、開催時期等も季節や団体の事情により行われているところでございます。市の行事につきましては、開催効果や参加者等の観点から、昨年度産業まつりと健康まつりの同時開催を図りました。このように、行事の開催に当たりましては、その目的に沿った中で見直し、魅力あるイベントになるよう今後とも計画してまいりたいと考えております。

なお、地域の活性化を図るための観光まつり等大きなイベントの場合、全市一体となって運営されておりますことは御案内のとおりでございます。し

たがいまして、今後のイベント等の開催につきましては、中心となるべき団体の意向や開催趣旨等を踏まえまして、状況に応じて対応してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目の各種行事における公費の負担基準の設定についての御質問でございますが、各種行事の公費負担につきましては、従来から行事の目的、内容等が公益性を有し、補助効果があるものについて交付を決定してまいりました。各種団体等で実施します行事につきましては、行事内容、事業費等さまざまございまして、その年度により行事の内容等に変更もあり、一定の基準を定めることは大変困難かと思われまゝです。今後とも行事の公益性、補助効果、さらに事業内容、事業資金等を十分に考慮いたしまして交付してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、地域の活性化を図るため、町村合併を推進していく考えはないかとの御質問でございますが、現在各自治体を取り巻きます諸問題につきましてはますます広域化、多様化する傾向にございます。これら行政需要に対しましては広域的視点の中で解決することが求められております。したがいまして、今後安房地域関係市町村との緊密な連携を一層深めるとともに、広域的な問題に対する共通認識に基づきまして諸問題に対処してまいりたいと考えております。御意見を貴重な御意見として拝聴しておきたいと思ひます。

次に、大きな第3、消防団員の士気高揚のため、公費負担を明確化し、増額せよとの御質問でございますが、消防団員は郷土愛護の精神に燃えまして、地域社会における消防防災の中核として、多忙な生業の傍ら奉仕活動に従事されておられまして、おかげさまで館山市といたしましては幸いにして大きな災害もなく、心から感謝を申し上げているところでございます。

御質問の公費負担の増額でございますが、館山市といたしましては、消防団にかかわる公費負担といたしまして、詰所や防火水槽の建設、消防ポンプ自動車の更新による購入等、消防施設等の整備及び維持管理費用につきましては市が全額負担を行っております。また、被服、半長靴等の貸与も行っております。

消防団員の報酬及び火災出動等の費用弁償につきましては、平成3年4月1日現在、県下29市の平均と比較いたしますと、報酬額では――階級により多少の差はございますが、部長の142.6%から団員の127.1%まで館山市が平均を上回っております。例えば、館山市団員の報酬額は県下29市中、上から2位となっております。しかしながら、費用弁償につきましては82.3%と館山市が平均を下回っております。これらにつきましては現在引き上げを検討中でございます。

このような状況でございますが、今後とも消防団活動の性格及び他市の動向等を参考にしながら、施設整備の充実とあわせまして改善を行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） いつも私感ずるんですが、非常に御答弁がきれいな答弁でございますが、ひとつ私はもうちょっと具体的にお聞かせいただきたいと思います。

まず、1点目の行事でございますが、このお答えの中で、去年はおととしまで別々にしておった産業まつりと健康まつりを一緒にやったんだというようなことでございますが、かなり成果があったと思いますが、どのような成果があったのかちょっとお聞かせ願いたい。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

従来は別々の日程でやっておりまして、何回も――これは特に市街地から離れた方のお話でございましたんですが、できれば一遍でというようなこともございました。ただ、たまたま昨年度は雨天でございましたので、じゃあ前年と比較してどの程度のいわゆる参加人員という面で効果が出たかということについてはなかなか分析が難しいわけでございますが、平成2年度産業まつりが5,000人、それから健康まつりの方が3,800人ぐらいということでございますが、昨年度は産業まつりが7,000人、健康まつりの方は一部屋外競技中止がございましたので3,200人程度、トータルいたしますと若干平成

3年度はふえているというようなことでございますが、たまたま会場を見ますと、私健康まつりの会場におりましたんですが、今までお見えにならなかったような例えば西岬、神戸、富崎というような地区からお見えになっていらした。両会場をバスで結んだというようなこともございまして、一緒に開催した効果というものはあった、そういうふうに受けとめております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） そういう2つの行事を同じ日にしたということ でかなり成果があったというようなことでございますので、私はせめて季節 ごとに――夏は一つにまとまっておりますけれども、春とか秋、そういうふ うな季節ごとにいろんな行事が組まれておりますが、それらをできれば―― 同日ということは、これはどうかと思いますけれども、せめて観光まつりは ――あれ10日間やっております。ですから、そのような――ある程度日にち 的にちょっと余裕を持たせても、また会場は別にしてもという――これはで ければ同日が最高なんですけれども、そのように季節的に同じ――特に近い 日程の中で組み込むことができないかどうか、この点はどうですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

ある期間に集中して行うということも、これは他市町村の例を見ましても 大変効果はあるのではないかなというふうに考えるわけでございますけれど も、やはりそれを実施します時期でございます。例えば夏場ということにな りますと、いわゆるそれらに関連します業に従事している方は大変忙しいと いうようなこともございます。今ここでどうこうとなかなか御即答難しいわ けでございますけれども、そういう実施等についていろんな問題をクリアし ながら、いろいろとまた関係者の皆さんで御協議する中でいい方法を考えて まいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 夏の観光まつりのようにその一つの――あれは

10日間ですか、その日程の中へ — 場所はそれぞれ、かなり離れたところもございますが、そのメリットというのは、宣伝を大きなポスターに全部入れるとか、また折り込みもかなり大きなポスターを使って、安房郡市はもちろん、また東京の記者クラブ、そうやって県外宣伝をするというようなことができたわけです。したがって、総体的に人手というのはかなりの数字が来る。また、テレビ局にしてもその取材をしてくれるということで、非常に効果が大きいわけなんです。ですから、そのような方向でこれはお願いをしたいと思います。検討する — 非常にみんなの答弁聞いていると、きれいな語句、字句が使われますけれども、実際にこれを行動に移していただきたいということなんです。

それと、私伺わしております — そういうことをするのに、担当課が集まって合同協議だとかと言わないで、その主体となるセクションをつくっていただきたい。これなんかそういう気持ちがないように私受け取るんですが、その点はどうですか。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 特にそのためのイベントを担当するセクションを新たに設置、来年度早速設置するというような考えは持っておりません。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 私この前のとき言いましたのは — なぜそういうことを言うかといいますと、いつも — 館山市の場合は財政が非常に乏しいものですから、財政に見合った — いろんな事業にしても行事にしてもそういうふうなことばかりしかできない。ですから、私はむしろそうじゃなくて、私は企画先行の予算を組んでくれということをそのとき申し上げましたが、この行事にしても、どうせやるんですから、思い切った宣伝効果があるようなものにしていただきたい。それで、本当に市民を巻き込んでいくには、もう少しやはり行政もやる気を起こすには、そういったセクションが私は必要だろうと思うんです。しかし、今助役さんは考えがないというふうなことでございますけれども、何とか私はそういう方向に持ってってもらいたいということをこれは要望にしておきます。

そして、次に移りますが、町村合併の問題をこれは出しましたが、どうしてこれ出したかという、どうも館山は今言いましたように人口が年々減ってきて、じっと縮まって、いかにも守りの市政、守りの行政のように見えてしょうがないものですからこれを出したわけですが、この人口がいろいろなことをお考えのようですので、人口がふえると見ておるかと思いますが、具体的に人口の増加の対策がございましたら聞かせていただきたい。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 昭和61年度から第2期のいわゆる基本計画が策定され、今現在総合的なまちづくりということでもって、基本構想で示された活力ある文化福祉都市ということでもって進めているわけでございまして、やはり地域の振興につきましては、そこに書いてありますように海洋性リゾートタウンのまちづくりというのを中心にしながら、総合的に1次産業あるいは2次、3次産業育成、総合的に進めていくことが当然人口増につながる、こういうふうな認識を持っております。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 市独自で本当に経済活性化を図るということに持っていくには、やはりこれは思い切った財政規模ですか、予算規模を拡大する。これはいつも私言いますが、本当に全国の市税の構成比率の平均が館山ぐらいのまちですと大体30から32～33だという——鴨川はこの前言いましたように27%。ですから、私は館山市は市税の構成比率が27から30ぐらいまでの、そのぐらいの規模の大きな予算編成をできる、するという強い決意があるのであれば、私はその辺で、思い切った事業ができますので、経済がかなり活性化されてくると思いますが、もしそういうふうな意思が今までと同じで、じっと守りの行政を続けていくのであれば、私はむしろこの町村合併なりして、それで地域を広げて人口をふやしていった方が予算規模の拡大につながるということもございしますので、私はこういう問題を提起したわけです。

これはこの前、市町村長の集まりがあったときに私もちょっとその場に同席したときがありました。たしか鋸南でしたか、そのときにほかの鋸南の方

の町長さんが何人かいます、その人たちが異口同音に言うのは、山中さん、我々はいろんなことをもうやってきたんで、この辺でやはり、房州は館山が中心だから、館山が中心で合併をする時期来たように思うんですがねということを書いていました。ですから私はこういう問題出したわけなんです、その辺もう一回市長さん、どうですか、その辺のお考えを——ちょっとはっきりは言えないと思いますけれども、においぐらいかがさせていただきたいと思うので、お願いをいたしたい。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今山中議員さんから非常に積極的な御意見をちょうだいいただきましたが、この問題につきましては、御意見にありましたように各地域から声が出かかっているのは事実でございます。しかし、まだ大きなうねりになっておりませんし、問題を各——特に町村の場合、自主的に解決できるシステムでなくなってきた。広域化してまいりましたんで、どうしても各自治体が大きな力を、もっと強い力を持たなきゃいかん。それには自分の町ではやり切れないという段階に来かかっているのは事実かと思えますけれども、それを今ここの6月市議会で、本会議で私からどうのこうのというのはちょっと差し控えさせていただきます。諸問題は広域化の方向で対処していくという段階かと思えます。御了解賜りたいと思えます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） ひとつぜひお願いをいたします。

それでは、次の消防団の公費負担の問題に移ります。これは先ほど申し上げましたように消防組織法というのがありまして、この第8条に消防に要する費用は市がこれを負担しなければならないということが出ておりますが、これは市の方としてこの法律をどのように解釈しておりますか、それをちょっとお聞かせ願いたい。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 消防組織法についてはそのとおり解釈しております。市町村が持たなければならないということでございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 先ほど県内の市の状態はお聞かせいただきましたが、この館山近隣の安房郡の状態はどうなんですか。これは報酬額とか費用弁償とかありますが、それをちょっとお聞かせ願いたい。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 安房郡市11市町村の関係でございますけれども、まず団員報酬、それにつきましては――これ団長、副団長、分団長、副分団長、部長、班長、団員ということで7つのパートに分かれておりますが、その中では、団長につきましては館山市19万4,000円で、11番目でございます。副団長についても11番目、13万4,000円でございます。分団長については、鴨川の上といいますか、8万3,000円で、第10位でございます。それから、副分団長、これにつきましても6万6,000円で、鴨川の上で、10位でございます。それから、部長は7位でございます。鴨川が下にあります。あと、部長制度のないところが3つありますから、鴨川の上。それから、班長につきましては、これ9位でございます。天津小湊町、それから鴨川市が下でございます。それから、団員につきましてはやはり9位、天津小湊と鴨川が館山よりも下回っているということでございます。出動手当につきましては、火災は1,400円ということでございまして、これは第4位。下に鋸南、三芳、千倉、和田がおります。それから、風水害、これは1,400円、これも同じでございます。それから、警戒1,000円、これにつきましては館山より下の三芳、千倉、和田。それから、訓練についても同じでございます。これは先ほど市長が答弁いたしました平成3年4月1日現在の安房郡市の状況でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 消防後援会というのが各区にできておりますが、その後援会の費用負担ですか、それが非常にいろんばらつきがあるようですが、大体住民1人当たりどのぐらいからどのぐらいまでの差があるのかちょっとお聞かせいただきたい。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 各地区の消防後援会についてでございますけれども、これにつきましては御承知のとおり各地区の消防団員に対する物心両面にわたります応援をしていただいているわけでございます。そういうことで、市の消防行政といいますか、そういう中でのもではなくて、あくまでも地域の住民の方々の消防団員に対する感謝の気持ちでの後援会組織というようなことを考えておりますので、これにつきましてはの調査とか、そういうことは行っておりません。

そういうことで、市の行政といたしましても大変後援会の方々には感謝しているわけでございますけれども、そういうデータのものはございません。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 団員の獲得は非常に——私も真倉の区長をやっておりますので、本当に現実を感じております。前には消防団員がやめるときは、あんた方、悪いけれども、かわりをめっけてやめてくれよというような虫のいいことで通ってきた。ところが、ここへきまして全然それがだめで、悪いけれども、一緒に区長行ってくれ、区長頼んでくれということで、平身低頭してやっとお願いしておるというのが現実なんです。

これは行政の方といたしまして、非常にその団員の獲得が難しくなったという——これは全市的かと思いますが、その原因は一体何であると思いませんか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 消防団員の減少についてでございますけれども、これは館山市だけの問題じゃなくて、本年度の消防白書にもその記述が載っているわけでございますが、現在全国で99万 1,566名の消防団員がいる。これは前年対比7万 2,195人が減少、6.8%という数字が載っているわけでございます。近年連帯意識といいますか、そういうような形で、社会の価値観といいますか、そういうものが大変多様化してきているわけでございます。そういう中で、この奉仕活動——生業を持ちながらボランティア活動として積極的に社会に貢献していく、地域に貢献していくというような機運が希薄になりつつあるというようなことも言われております。

市といたしましては、消防団と常時緊密な連絡をしながらこれらの活性化——何とか団員確保のためにいろいろ施策を団とともに計画をしているわけでございます。各区長さん方大変御苦労をかけているわけでございますけれども、消防団としても活性化のために、出初め式とかいろいろ工夫を凝らしながら、住民と一体となった、それが団員の確保につながるような施策を実施しているわけでございます。

そういうことで、ひとつ今後とも先ほど市長が申し述べたとおり消防団のために御協力、御尽力をいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） これ消防団が——常備消防があるんで、消防団は消防団員が減ってきてもしようがないなという考えではないと思う。どうしてもやはり消防団が必要だということなのかどうか、その1点どうですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いわゆる常備消防と消防団は車の両輪でございます。そういうことで、片一方が欠けてはならないわけでございます。両輪でこれからも消防行政を進める。基本的な考え方でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） どうしてもやはり消防団は存続していくんだ、むしろ強化したいという考え方であれば、私は先ほど申し上げました消防組織法という法律、これはやっぱりこのとおり考えているという市の答弁もございましたので、これからいくと、消防に関する経費は全部市が負担しなくちゃいけないということであろうと思います。

もちろん私たち後援会の立場からすれば、本当に命がけでやってくれる団員さんの集まりでありますので、それを後援してやるわけですから、金で済むことは安いじゃないかということで、いろんなことで消防団の人たちの言うことを聞いてやっておりますけれども、それがたまたま戸数の少ないところは私大変だと思うんです。それで、私は非常に不公平だと思うのが、戸数のうんと多いところ、町に力のあるところと農村地帯のようにうんと小さいところでは、同じ命がけでやっておっても後援会の会費にまるっきり雲泥の

差があるんで、非常に私は不公平だと思うんです。

ですから、そういうふうなことも考えまして、この消防組織法の精神が十分わかりだとすれば、私は御答弁の中で、ほかの市町村はこうなんだ、県の平均からいってこうなのだ、むしろ館山は高い方だとかいう、そういうことじゃなくて、よそ並みに考えることはないと思うんです、こういうことは。本当に館山の場合は、先ほど言いましたように人口対策をどんどんやって、人口がふえてくればこういうことはうんと減ってくるわけだ。残念ながらそういうふうな点もないし、予算規模もちっぽけだし、じっとしているからどんどん、どんどん減っていく。ですからこういうところへしわ寄せが来るわけでございますので、その辺を私は考えていただきたい。せめて命がけでやっている人ぐらいいは気持ちよく、こういうわけで1人欠員になったんだ、よし、じゃあ私がやりましょうというぐらいいの機運を醸成できるぐらいいの私は方法を考えてほしいと思うんです。

これは答弁を願うといっても私は無理だと思いますんで、何とか私そういうふうな方向で、方向づけをきちんと考えて基本姿勢を私はつくっていただきたいと思う。これは市長さんにぜひその点をお願いをして、質問を終わります。

ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で15番議員山中金治郎君の質問を終わります。

次、2番議員増田基彦君。御登壇願います。

（2番議員増田基彦君登壇）

◎2番（増田基彦君） 早いもので1年生議員になりましてから1年がたちました。市長さんを初め市当局の皆さん、また先輩の先生方、温かい御理解と御指導によりまして大過なく過ごさせていただきました。ありがとうございました。まだまだ勉強不足ゆえ、失礼な点多々あろうかと思いますが、よろしく御指導のほどお願い申し上げます。

私はさきに通告いたしました3点につきまして質問させていただきます。

第1点でございます。市の農政についてお伺いいたします。去る3月議会におきまして予算審議に参画させていただきました。そして、大変勉強させ

ていただきました。バブル経済の崩壊した現在、当市の平成4年度の当初予算が国の一般会計 2.7%、県予算 2.9%を大幅に上回る11.9%の伸びを見せたことは、庄司市政の積極姿勢、積極予算、目をみはるものがありました。総論的には大賛成でございます。各論、特に農業予算に対し、若干今後考えさせていただきたい点がございます。

一つ目の目安といたしまして、当市の人口が約5万5,000人、農家人口が約1万人でございます。20%近くを占めているわけでございます。世帯数にしましても、約1万9,000戸のうち2,500戸が農家でございます。13%を占めているわけでございます。市の面積が約110キロ平方メートル、耕地面積が1,700ヘクタール——ちょっと単位が違いますが、約15.6%を占めているわけでございます。大体人口、戸数、面積とも15%前後を占めているわけでございます。平成3年度の農業粗生産額が75億円であります。当市の基幹産業でもあります。当市の平成4年度当初予算約144億円、農業予算4億弱でございます。2.7%でございます。この額が適切かどうか、勉強不足ゆえ判断に苦しむわけでございますが、私には少ないと考えられます。御一考をお願いするわけでございます。

農業を取り巻く環境は大変厳しいものがございます。去る10日に新政策が農水省より発表されました。農業人口の減少や食糧自給率の低下などにより、農業は大きな転換期を迎えていると位置づけております。また、平成3年度農業白書は、労働力の減少、耕作放棄地の増加、高齢化等が指摘され、農家の存続に警鐘が鳴らされております。農業労働力は、土地利用型の農業を中心に高齢化と後継者の減少が進行しており、こうした状況が続けば農業はすぐに行き詰まってしまいます。現在の農業生産を支え、中心的な労働力となっている昭和1けた世代をピークとする年齢構成パターンが年を追うごとに高齢化へシフトしております。これらの年代がリタイアの時期を迎える中で、大幅な労働力の減少が考えられるわけでございます。後継者も減り続け、例えば館山市の新規就農者はたったの2人でございます。このように農業は危機的な状況下にあります。行政はどのように施策、対策をお考えですか、お伺いいたします。

小さな1点目、稲作で10から20ヘクタール経営という農水省新政策が去る10日発表されました。この点についてお伺いいたします。館山市の農家の平均耕作面積はおよそ50アールと伺っております。単純に考えれば、2,500戸の農家が60戸から120戸に集約されるわけでございます。これは大変なことでございます。行政はこの問題をどうとらえ、どう取り組んでいくかお伺いいたします。

小さな2点目、経営の多様化による行政の対応についてでございます。農業は、ただ単に農作物を生産するだけではなく、加工、販売等多くの可能性があると考えられます。当地が首都圏内にあり、自然環境にも大変恵まれているわけでございます。これからは多様な経営も考えられます。行政の即対応の姿勢、支援策をお願いするわけでございます。また、今後即対応の姿勢を考慮していただけますか、お伺いいたします。

小さな3点目、農道整備事業の舗装率についてでございます。農作業の効率をよくするためには農道の整備が大切であろうかと思われます。環境をよくすることが農業に希望を持たせる一つの方法かなと考えるわけでございます。早い時期をお願いするわけでございます。

続きまして、大きな第2点目、総合保養地域整備法に基づく民間リゾート開発計画についてでございます。この件につきましては先ほど神田先生が質問されましたので、重複する点多々あるかと思われますので、よろしくお伺いいたします。

海洋性リゾートタウンのまちづくりを推進している館山市にとりまして長年の念願としてきました道路と水の問題が解消され、リゾート法の追い風に乗りまして大きく変貌しようとしております。大変喜ばしいことでございます。しかしながら、最近新聞報道等によりますと、転機のリゾート、開発手法の見直し、撤退相次ぐ等の記事を見かけることが多くなりました。しかし、館山市にとりましてはリゾートは不可欠でございます。

リゾート法が生まれた背景には、86年ごろの円高不況で地域経済を支えてきた公共投資、企業誘致等が行き詰まっていたという事情がありました。地方自治体はリゾート開発が地域活性化の柱と考え、87年に同法が施行される

と、一斉に地域指定を求め奔走したようでございます。各地の構想はゴルフ場、マリーナ、リゾートマンション、ホテル、賃貸別荘等画一的なものでした。高度成長期——60年代半ばに新産業都市工業整備特別地域による大規模開発ブームがありました。地域指定された地域は鉄鋼、石油化学等の重厚長大産業を地域振興の柱に据えましたが、これは第1次石油危機とともに構造不況業種に転落してしまいました。全国35地域が指定されたリゾート法による開発も見直しを迫られております。新産業工特地域にせよリゾート開発にせよ、一斉に同一の内容、手法で始まり、しばむときも一斉というのでは困ります。地域の主体性が唱えられながら、国も自治体も中央主導型の開発手法から発想が転換できないところに原因の1つがあると言われております。

リゾート開発では、バブルの波に乗ってゴルフ会員権、リゾートマンション等キャピタルゲイン追求型の開発方式を各自治体が選択したことも画一的になった原因であります。バブル経済の崩壊でキャピタルゲインが見込めなくなった現在、民間企業が全面に出る開発手法は考え直さざるを得まいという考えも出てきています。

ただ、リゾート開発そのものが必要でなくなったわけではありません。館山市にとりましても、また一方では労働時間の短縮、ゆとり社会実現のための観点からリゾート開発は不可欠であります。その際に必要なのは、地域住民、利用者の立場に立った開発が必要だと考えます。

神田先生の質問と重複しますが、太陽海岸平砂浦計画、南たてやまマリンパーク計画、現在までの進捗状況、そして今後の見通しなどについてお伺いいたします。

第3点でございます。市道2134号線拡幅についてでございます。この道路は、県道和田丸山館山線の千葉県南総農業青年研修所より南へ約600メートル、市道2132号線に至る道幅約5メートル——道路敷は含まれておりません——の市道でございます。この道路は昭和51年、52年、安房中央土地改良区の圃場整備事業によりつくられた道路で、当時とすれば十分な幅員として設計、施工されました。

その後、館山バイパスの一部供用開始に伴い、朝夕の通勤時、通勤道路と

して、また昼は産業道路として一気に通行量が増加してまいりました。平成3年、朝7時より9時まで通行量を調査した結果、7時から8時まで305台、8時から9時まで322台、2時間で計627台の車が通行いたしました。1日ではおよそ2,000台の車の通行が予想されます。

通行量の増加に伴い、事故も大変多くなりました。また、車の圃場並びに排水路への転落事故も頻繁にあり、圃場での仕事にも身の危険を感じる場合もたびたびあります。時によりますと、見張りをつけて仕事をしている農家の人もおります。

平成3年11月1日、亀ヶ原区より館山市に対し道路拡幅の要望書が提出されております。幅員を広くしていただけたら、交通の安全はもとより、円滑な交通状態となり、加えて道路に接した耕作者の作業面においても安心して作業ができるものだと思っております。以上、よろしく御賢察、御理解いただければ幸いです。

以上3点御質問させていただきました。御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの増田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の館山市農政についての御質問でございますが、農業の振興は国内の食糧政策の基本でございます。館山市にとりましても極めて重要な産業であるという認識のもとに、生産基盤の整備を初め、経営の近代化及び合理化を図るべく諸施策を進めているところでございます。

そこで、小さな第1点目の稲作で10から20ヘクタール経営の農水省新政策案をどう考えるかとの御質問でございますが、この新施策の方向は、食糧政策を初めて農政の中で明確化し、自給率低下に歯どめをかけるとして、農業政策では、望ましい経営体重視の政策転換、またより強く農地集積や法人化などの構造政策に力を入れる一方、規制緩和、市場原理を一層導入した価格政策の転換も検討、さらに農村地域政策、定住人口の確保を打ち出し、10年後程度を目標に段階的政策の実現に向けるとしております。この趣旨に沿

いながらも、当地域が自然環境に恵まれているこの特性を生かした農業振興政策を進めてまいりたいと考えております。

小さな第2点目の経営の多様化による行政の対応につきましては、現在館山市は、地域の特性に応じ、水稻プラス酪農、野菜、花卉等の複合経営による営農形態が主となっております。市といたしましてもこれに対しまして各種補助をしているところでございますが、今後とも経営の改善を目指しまして、規模拡大及び生産性向上を図る等、営農意欲のある農業者に対しまして積極的に対応してまいりたいと存じます。

次に、小さな第3点目の農道整備事業の舗装率につきましては、平成3年度現在で51.7%の舗装率となっております。今後ともこの舗装率につきましては推進してまいります。

次に、大きな第2、民間リゾート開発計画の進捗状況と今後の見通しに関する御質問につきましては、先ほど神田議員にお答えしたとおりでございますが、南たてやまマリンパーク計画、太陽海岸平砂浦計画とも、この2つの民間リゾート開発計画は、森林法に基づく林地開発申請が提出されまして、受理されたところでございます。今後は都市計画法に基づきます開発許可申請の手続が必要でございます。館山市といたしましては、今後とも積極的に取り組み、その実現化を促進してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、市道2134号線拡幅についての御質問でございますが、この路線につきましては、亀ヶ原地内の圃場整備区域を通過し、三芳方面から市街地を結ぶ道路として近年交通量が増大していることは認識しております。道路拡幅につきましては、館山市全体の道路整備計画の中で対処してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） 農業予算についてお伺いいたします。

生命の次に大事な食物を生産する農業予算が4億弱でございます。先ほど申し上げましたが、市の当初予算144億。これは四捨五入するとなくなっちゃう数字でございます。農業人口1人あたりにしますと4万円ぐらいでござ

います。大変少ないと思います。高齢化も進んでいるわけですが、先ほどもちょっと申し上げましたが、農業の中心的労働力は60歳以上の方が頑張っておられるわけですが、会社員で言えば、定年退職をした人が頑張っているということでございます。こういう人たちが——こういう人たちって失礼ですが、そういう農業環境の中で、ちまたでよく聞くことですが、館山市では農業は軽く見てるんじゃないかという、そういう意見も多々聞くわけですが、やっとなんか頑張って仕事をしている農業者に明るい希望を持たせることはできないでしょうか。農業にも庄司市政の積極予算を期待したいと思いますが、いかがでしょうか、御質問いたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 答えいたします。

農業予算低過ぎるんじゃないかという御質問でございますけれども、農業の振興や活性化を図る施策の推進につきましては、行政の対応は、これはもちろんであるわけですが、農家の皆さんや農業団体等の意欲と理解、こういうものが大変大きなウェイトを持つんじゃないかというふうに考えております。農業を取り巻く環境は大変厳しく、将来の展望も大変不透明な時期ではあるわけですが、市といたしましても各種情報を提供する中で、農家の皆さんや農業団体等と十分協議し、生産基盤の整備や近代化の推進等、関係機関の協力のもとに事業化に向けて一層の推進を図ってまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） ただいま優等生的な御回答をいただいたわけですが、農業は御存じのように内圧、外圧とも四面楚歌の状態でございます。優等生的な御返事ではなかなか解決できない問題だと思うわけですが、積極的な市政をお願いするわけですが、やる気のある農家というような御回答もございましたが、もう年にとって、周りじゅうから痛めつけられておりますので、なかなかやる気を起こすことができないぐらいもう倒れております。行政がいかにしてやる気を起こさせるかというのが一つの

お願いするところなんでございますが、優等生的な御返答じゃなくて、もっと具体的にお願いできたらと思いますが。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 確かに意欲のある農家、これはもう場合によりましては行政がほんのちょっと手助けをすればというような、本来意欲を持っておられる農家でございますんですが、今増田議員さん御指摘のように、そうではないけれども、一応農業経営をされているという農家、例えば2種兼業の方、いわゆる兼業農家というような——分け方はちょっと大ざっぱかとも思いますが、そういうような方が大半ではないのかなという気がするんでございますけれども。確かにそういう何かの施策をする場合に、100%行政がやるということは、これはなかなか困難なわけでございます。

したがいまして、私先ほどの答弁の中で各種情報を提供する中でというふうにお答え申し上げましたんですが、こういうやり方がある、例えば基盤整備についてはこういうものがあるとか、そういうふうなものを私どもの方で提供いたしまして、中にはそういう整備手法とか、そういうことを御存じない方もおいでになるのではないかと思うんです。

ただ、将来的に——よく子孫に借金を残したくないとか、そういうような声も聞くわけでございますけれども、そういうお考え方が正面に出てきてまいりますと、非常に私ども行政としても対応しにくい。個々のそういう不安感というようなものを周りの例えば農家組合とか、例えば何かの土地改良事業を行う場合は土地改良区とか、そういう中で一緒に考えて進めていく、そういうような環境を私どもの方もかかわりながらつくっていく。

そういう意味で、ちょっと先ほどは答弁短かったんで、大変足りないところがあったと思いますけれども、そういうふうに考えているわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今の増田議員の再質問でございますけれども、館山市において市農政を軽んじているということはございません。具体的な問題

をここでという御質問でございますが、それにつきましては、今も答弁ありましたように、これから関係諸機関等と協議して詰めてまいります、市農政を極めて重んじている、大事にしていくという点で御了解を賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） ありがとうございます。では、平成5年度の予算には態度で示していただくということで――歌の文句にもございますが、そういうことで理解させていただきます。よろしくお願いします。

続きまして、館山市の基本計画の中に農業後継者の育成確保に努めましますありますが、どのような対策を講じておいでですか、お伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

後継者の対策ということでございますが、市におきましては、現在は農業後継者対策といたしまして、専業農業従事者の結婚に対しまして奨励金制度、それから新しい時代の農業に対応できる技術習得の場としての組織づくりのため、農村青年グループ育成事業及び農業企画研究会育成事業を実施し、後継者の育成を図っているところでございます。しかしながら、農業後継者の減少は、これはもう館山市のみではございまして、大変難しい課題というふうに私ども認識をしておるわけでございますが、今後とも関係者といろいろ協議を重ねながら引き続き検討を進めてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） 先日の新聞報道等によりますと、農業者の結婚にお祝いをしたということで出ておりましたが、最近他府県のところでもそういうような奨励金、お祝いですか、そういうのを出しておられるところも多いようでございますが、新聞のミスプリントかどうかわかりませんが、額が余りにも少ないじゃないか、かえって額を出さなかった方がよかったんじゃないかというような気もするぐらいの額でございまして、またそういう面御配

慮いただければと思います。

農道についての質問をさせていただきます。他の隣接町村と比べると、農道の舗装率が大幅におくれているようでございます。その点につきまして、90%の舗装率にはあと何年ぐらい予定を組んでおいでですか、お聞きしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

何年ぐらいという質問で、大変お答えしにくいわけですが、現状でちょっと申し上げさせていただきます。農道の総延長が約191キロでございます。舗装済み延長が99キロ——約でございますが、これで舗装率が51.7%ぐらいになろうかと思えます。農道といいましても、幅員の広い、狭い等いろいろございますが、それをさらにまた内訳で申し上げますと、圃場整備の済んでおります区域内の農道、これ約66キロでございます。35.7キロほど舗装済みでございますして、約54%舗装が済んでおります。それから、軍から払い下げられた地域の農道ということでございますが、これが約56キロございまして、約53キロ程度舗装が済んでおります。約95%弱になろうかと思えます。それ以外にいわゆる里道、赤道という——実際にこれが農業の用に供されている道路があるわけですが、約66キロほどあるわけございまして、そのうち舗装の済んでいますのが10キロ、約15%ということで、問題はこの赤道の舗装というようなことになろうかと思えますけれども、現在のところこれ何年で全部舗装をするというような長期的な計画今のところまだございませんので。この農道の舗装というのは、先ほど御質問の中にもございましたとおり、通作とか、それから農業資材、それから農産物、この運搬には非常に経済的にメリットがあるというふうに私ども認識をしておるわけでございます。そういう意味で、なるべく早く整備ができるように前向きに進めてまいりたい、このように考えております。

御答弁にならないかと思いますが、御理解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） なるべく早く農業者がいるうちに舗装してもらいた

い、そのように考えるわけでございます。

レインボータウン計画、大手企業が撤退されましたが、その後その地域はどうなっておりますか、お伺いするわけでございます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

レインボータウン計画がこれもう撤退したということは皆さん御承知のとおりでございます。その後につきましては、2～3話が出てまいったようでございますけれども、いずれも具体化には至っておりません。

この計画は館山市だけがつくったわけじゃございませんで、県の方にも計画上がっているわけでございます。したがいまして、撤退をいたしましてから結構時間も経過をしているわけでございます。県の方と協議をいたしまして、見直しを含めて検討をしてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） リゾート開発は企業のキャピタルゲイン追求方式から自治体の主体性が重視されるようになってきました。地元の知恵と工夫が一層求められるようになりました。岐阜県等では、リゾート開発は県民が楽しむものを県民総参加でつくるものと明確に位置づけているようでございます。この点、企業サイドのことなので、行政の立ち入るあれはないか、その点わかりませんが、その点どんなふうにお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） お答えいたします。

今まで3つのプロジェクトがあったわけでございますが、南たてやまマリナーパーク計画と太陽海岸平砂浦計画は現在進んでいるわけでございます。ただいまお答えいたしましたとおり、問題はレインボータウン計画のいわゆる後といいましょうか、そういうことになろうかと思いますが、先ほど申し上げましたように県との協議の中で見直しをしていく、そういうことでお答え申し上げましたんですが、その中でそういう面も検討をしてまいりたい、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） どうもありがとうございました。

市道2134号線について道路計画の中で考えていってくださるという御返答でございましたが、あの県道は——亀ヶ原地区の市道のところでございますが、ほとんど拡幅が終わって、両方に歩道のついているところから市道が出ているということで、あそこはもう道路計画とか県道の計画はないところでございます。よって、あそこの道路を早急に拡幅してもらわなければ、交通上の危険、また農耕作者の危険が当然永久につきまといっていくところでございますが、なるべく早い時期にお願いしたいと思います。

検討するということはよく——私も1年生でよくわかんないんですが、前向きに検討するということはやらないことだということを何か伺ったこともございます。その点確認させていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 今市では市道の道路整備計画、私の記憶するところでも10本程度ございます。その中にこの2134号線も入れなきゃいけないんですけれども、この御指摘の道路については、昔が農道、それを市道に昇格したわけでございますけれども、増田先生のおっしゃるのには7メートルということなんですけれども、これを7メートルにいたしましてもやはり耕作者は大分不安を感じると思います。そんなことで、道路改良をしなきゃいけないんですけれども、市としては一応6年度に測量をかけたいと現在では思っております。

ただ、本来ならば、増田議員さんも御存じのとおり、亀ヶ原に通じる和田丸山館山線、この道路改良が本流だと思います。そういった意味で岩崎橋の改良計画も持っております。それから、正木の上のいわゆる家ごみですか、変則の交差点、それもきちっと改良して、早いところバイパスに直接につながねちゃならないと思います。それが一番の運動だと思いますので、市といたしましてはこの道路幅の拡張も考えなきゃいけないんですけれども、もっと重要なのは127号バイパスの横の道路、一番の基本のその和田丸山館山線を早急に改良しなきゃならないと思っております。

そんなことで、両面作戦でいきたいと思っておりますけれども、とりあえずこれについては6年度に測量をかけて、そして地権者あるいは水利組合と協議しながらこの拡幅計画を持ちたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 増田基彦君。

◎2番（増田基彦君） よろしく願いいたします。

いろいろつたない質問を申し上げましたが、特に農業面、温かい御配慮をお願いするわけでございます。

以上で質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で2番議員増田基彦君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後3時00分

◎議長（福原 勤君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明16日は議案調査のため休会、次会は6月17日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議を行います。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問